

学校法人 大手前学園

2019年度

事業報告書



OTEMAE EDUCATIONAL CORPORATION

Contents（目次）

● はじめに	1
はじめに	
● 建学の精神・使命	1
大手前学園の「建学の精神」	
大手前大学の使命	
大手前短期大学の使命	
大手前栄養製菓学院専門学校の使命	
● 法人の概要	3
大手前学園の沿革	
大手前学園の組織	
法人および各学校の所在地	
大手前学園の役員	
● 各学校の状況	8
校地と校舎	
専任教職員数	
入学定員、入学者数、収容定員、学生数	
卒業者数、就職者数	
● 事業の概要	11
法人	
大手前大学	
大手前短期大学	
大手前栄養製菓学院専門学校	
● 財務の概要	44
決算概要	
貸借対照表・資金収支計算書・活動区分資金収支計算書・事業活動収支計算書	
事業活動収入・支出割合	
事業活動収入（推移）	
事業活動支出・基本金組入額（推移）	
資産（推移）	
負債及び純資産（推移）	
財務比率の推移	
経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策	

● はじめに

学校法人大手前学園は、1946 年の設立以来、堅実な発展を遂げ、大学院、大学、短期大学および栄養学院、製菓学院専門学校を擁する学園として成長してきた。

学園は、18 歳人口の減少や経常費補助金の抑制等により財政的に厳しい環境にさらされている中、入学定員の確保、在学生のリテンション率向上、外部資金の獲得等、収入の確保に努め、経費の圧縮も図ってきた。

大学においては、2016 年には次代の社会で活躍する新しい管理栄養士の育成を目指して健康栄養学部を開設するとともに、2019 年にはグローバル化がすすむ国内医療のニーズにいち早く対応できる看護師の育成を目指して日本初となる国際看護学部を新設するなど、理系分野にも教育の幅を広げている。

また、短期大学では、2020 年に高齢化社会で高まる社会的ニーズに応じて歯科衛生学科を開設する。

さらに、2021 年には、学びの教育内容をより明確にすべく大学の「メディア・芸術学部」を「建築&芸術学部」に名称を変更する予定である。

学園創立 75 周年に向けて、グローバルコミュニティネットワーク構築に向けた未来型文理 Two キャンパスの整備を遂行する方針のもと、2021 年に向けて大学 1 年次生および短期大学をいたみ稲野キャンパスからさくら夙川キャンパスに移転し、大学と短期大学が共に同じキャンパスで学ぶことを計画するとともに、短期大学移転に伴いさくら夙川キャンパスに新学舎建築を進めている。

今後はさらに、教育における質の保証に向けて、教育改革、人材育成、地域・社会連携、国際化の推進に鋭意努力していく予定である。

本学園の 2019 年度の事業の概況を総括し報告を行う。

● 建学の精神・使命

【大手前学園の「建学の精神」】

大手前学園は「建学の精神」として、“STUDY FOR LIFE（生涯にわたる、人生のための学び）”を掲げている。

学園は、1946 年に大手前ビジネスカレッジ（のち大手前文化学院、現大手前栄養学院）として発足し、開学の精神は、「情操豊かな女子教育」である。戦後日本の復興・再建を担うに足る有能にして情操豊かな新時代の女性を育成するため、実践力を伴う幅広い教養を重視し、いち早く市民・地域住民への貢献を標榜して、志願者のために広く門戸を開放した。

その後、大手前女子短期大学、大手前女子大学、大手前製菓学院専門学校の設立を経て、総合教育機関に成長した。

2000 年に、それまでの大手前女子大学から男女共学制の大学として新たな一歩を踏み出し、2004 年には、大手前女子短期大学も男女共学化して、大手前短期大

学と改称した。

このような経緯を踏まえ、「建学の精神」である“STUDY FOR LIFE（生涯にわたる、人生のための学び）”に基づき、豊かな教養と専門的学術、旺盛な自己開発精神、優れた国際感覚及び問題解決能力を備えた人材を育成し、地域の教育・研究および生涯学習の中心として地域社会・国際社会に貢献することを目的としている。

【大手前大学の使命】

1. 本学の使命は、国籍、地域、民族、宗教、年齢、性別を問わず学ぶ機会を提供し、“STUDY FOR LIFE（生涯にわたる、人生のための学び）”を提供することである。
2. 本学の使命は、高い倫理観と強い意志を持って社会の困難な問題を他者と協働して解決する人材を育成することである。
3. 本学の使命は、教育と研究を通じて地域と連携し地域発展に尽くすと共に国際社会に貢献することである。

【大手前短期大学の使命】

1. 大手前短期大学は、実社会に則した実務教養教育を通じて、学生一人ひとりが自ら目的を見つけ、その目標を実現させる力を育成します。そのため教職員は、学生一人ひとりの個性と目的を尊重し、あらゆる機会において学生の自立を促すきめ細かな支援を行います。
2. 大手前短期大学は、すべての卒業生をかけがえのない財産だと考えています。学園として、同窓会を積極的に支援し、卒業生の生涯にわたるキャリア基地、同窓生・在学生の友愛と連帯のよりどころとなるよう努めます。
3. 大手前短期大学は、伊丹という地域との連帯感をいっそう強めるため、地域のニーズに応えるとともに、文化継承、生涯学習の拠点として積極的に地域との連携・交流を推進していきます。

【大手前栄養製菓学院専門学校の使命】

栄養・製菓の教育を通じて世の中に貢献する。

1. 栄養学・製菓学の追究と資格教育の充実
2. 学生一人一人を大切にする
3. 人の気持ちがわかるやさしい心の教育

大手前栄養製菓学院専門学校は栄養学・製菓学を追究し、資格取得の充実を目指しています。また、学生一人一人を大切に育み、高度な専門知識・技術ばかりでなく他人の気持ちがわかる優しい心の持ち主となるように人格教育にも力を入れ、真に世の中に貢献できる人材の育成を使命としています。

● 法人の概要

【大手前学園の沿革】

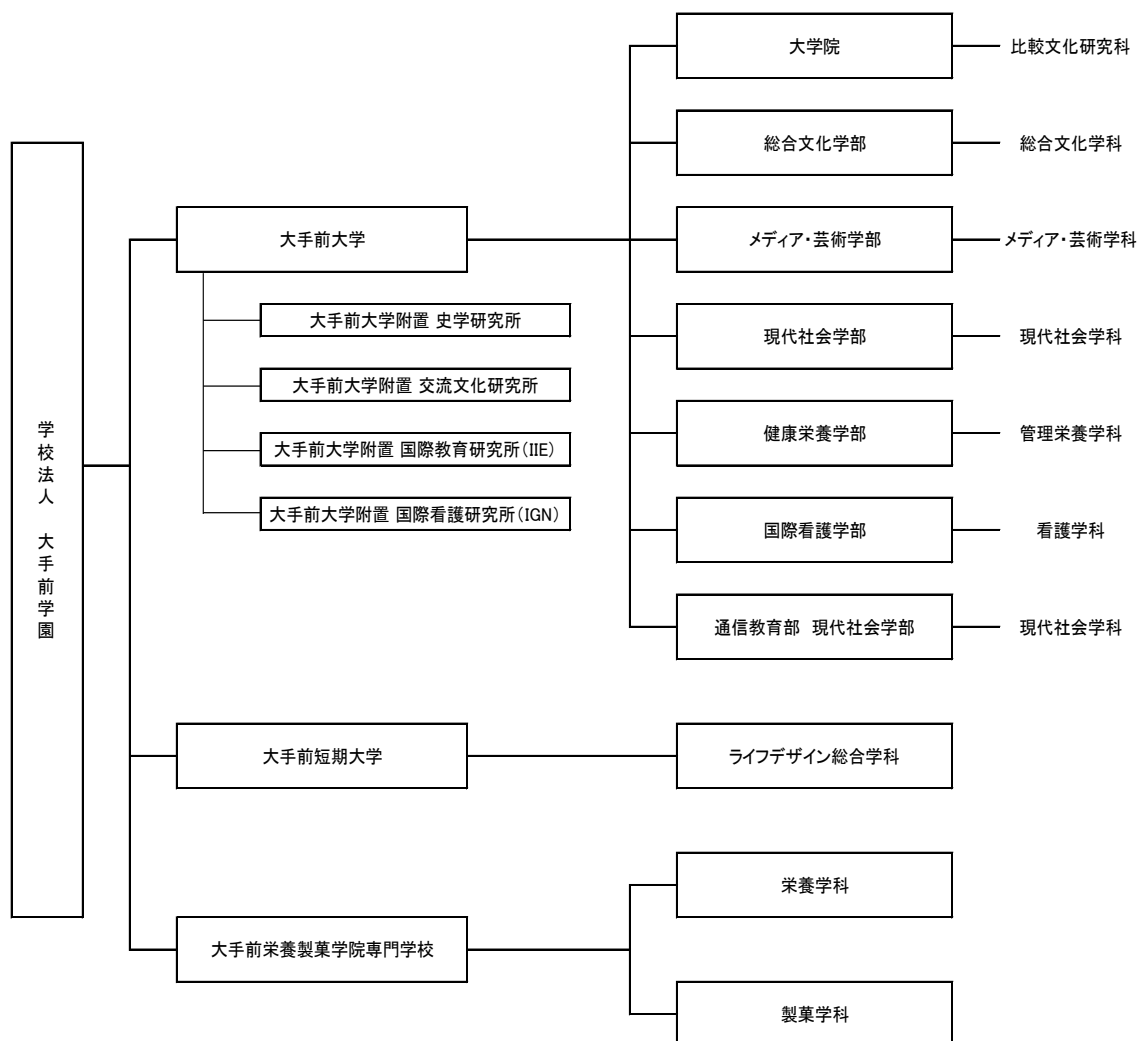
- 1946 「大手前文化学院」誕生
4 月大阪城大手前周辺（大阪市中央区京橋前之町偕行社跡）に学園の前身「大手前文化学院」を創設
- 1948 同学院を財団法人職業学院制とする（大阪市中央区大手前 2 丁目に移転）
- 1951 財団法人を「学校法人大手前女子学園」に切替認可
藤井健造理事長就任
「大手前女子短期大学」開学
4 月「服飾科」設置
- 1955 「大手前文化学院」に栄養部設置
栄養専門学校の誕生
- 1966 「大手前女子大学」開学
西宮市の夙川に文学部「英文学科」と「哲学科」の 2 学科を設置
- 1967 11 月 6 日に開学祭
歴史学者の三笠宮崇仁親王殿下をお迎えし記念講演を開催
- 1969 大学に「史学科」設置、英文学科を「英米文学科」に改称
服飾科を「服飾学科」に改称
- 1971 アングロノルマン研究所を開設
- 1975 哲学科を「美学・美術史学科」に改称
- 1981 史学研究所開設
- 1986 大手前女子短期大学、伊丹市へ移転
新スローガン「STUDY FOR LIFE」を設定
短期大学移転を機に、学園のカレッジ・アイデンティティを導入
大手前文化学院を「大手前栄養文化学院」に改称
- 1988 「大手前ビジネス学院専門学校」開学、「総合ビジネス学科」設置
- 1989 短期大学に「秘書科」設置
- 1991 西宮総合グラウンド竣工
福井秀加理事長就任
専門学校大阪新学舎完成
服飾学科を「生活文化学科」に改称
- 1992 大手前アートセンター竣工
大学に「日本文化学科」設置
- 1996 大手前女子学園創立 50 周年、大手前女子大学創立 30 周年
大学新学舎竣工

	大学院に「文学研究科修士課程比較文学比較文化専攻」設置
1998	大学院に「文学研究科博士後期課程」設置
	栄養文化学院に「製菓学科」設置にともない専門学校を共学とする
1999	大手前ビジネス学院専門学校廃止
	美学・美術史学科を「美術学科」、英米文学科を「英語文化学科」に改称
2000	学校法人大手前女子学園を「学校法人大手前学園」に改称
	大手前女子大学を「大手前大学」に改称とともに男女共学とする
	文学部を「人文科学部」に改称
	大学に「社会文化学部」設置
	社会文化学部に「人間環境学科」「社会情報学科」の2学科設置
2001	大手前女子短期大学創立 50 周年
	栄養文化学院に「製菓学科通信課程」設置とともに「大手前栄養製菓学院」に改称
	短期大学秘書科廃止
2002	大手前栄養製菓学院を「大手前栄養学院」「大手前製菓学院」の2校に分離、開学
	同時に、栄養学院に「管理栄養学科」(4 年制)、製菓学院に「製菓学科2 年コース」をそれぞれ設置
	史学研究所オープン・リサーチ・センター開設
2003	大学比較文学比較文化専攻を「比較文化専攻」に改称
	史学研究所オープン・リサーチ・センター竣工
	アングロノルマン研究所を交流文化研究所に改称
2004	人文科学部に「交流文化学科」設置
	大手前女子短期大学を「大手前短期大学」に改称・改組し男女共学とするとともに「ライフデザイン総合学科」設置
	大手前シティカレッジ開校
2005	福井有理事長就任
	福井秀加総長就任
	大学院文学研究科を「比較文化研究科」に改称
	人文科学部美術学科を「メディア・芸術学科」に改称
	社会文化学部社会情報学科を「キャリアデザイン学科」に改称
	大手前栄養学院創立 50 周年
2006	大手前学園創立 60 周年、大手前大学創立 40 周年、大手前大学大学院創立 10 周年
	短期大学生活文化学科廃止

2007	福井有総長就任 福井秀加名誉総長就任 大学に「総合文化学部」、「メディア・芸術学部」、「現代社会学部」設置 メディアライブラリーCELL 竣工
2008	短期大学が 2007 年度第三者評価の結果、適格と認定される
2009	CELL 教育研究所開設
2010	大学が 2009 年度第三者評価の結果、適格と認定される 大学に「通信教育部現代社会学部現代社会学科」設置
2011	大学人文科学部英語文化学科、日本文化学科廃止 大手前短期大学創立 60 周年
2012	大学人文科学部メディア・芸術学科、交流文化学科廃止 大学社会文化学部人間環境学科、キャリアデザイン学科廃止、社会文化学部廃止
2013	福井要理事長就任
2014	短期大学が 2013 年度第三者評価の結果、適格と認定される 大学人文科学部史学科廃止、人文科学部廃止
2016	大手前学園創立 70 周年、大手前大学創立 50 周年、大手前大学大学院創立 20 周年 大学が 2015 年度第三者評価の結果、適格と認定される 大手前製菓学院専門学校廃止 大学に「健康栄養学部管理栄養学科」設置 大手前栄養学院専門学校を「大手前栄養製菓学院専門学校」に改称・改組
2017	CELL 教育研究所廃止
2018	国際教育インスティテュート（IIE）を「国際教育研究所（IIE）」に改称
2019	大学に「国際看護学部看護学科」設置 国際看護研究所（IGN）開設 大手前栄養製菓学院管理栄養学科廃止

【大手前学園の組織】

(2019年5月1日現在)



【法人および各学校の所在地】

- 学校法人 大手前学園 大阪市中区大手前 2-1-88
- 大手前大学 西宮市御茶家所町 6-42
- 大手前短期大学 伊丹市稲野町 2-2-2
- 大手前栄養製菓学院専門学校 大阪市中区大手前 2-1-88

【大手前学園の役員・評議員】（2019年5月1日現在）

○ 理事（定数 6～8 名、現員 8 名）

理事長	福井 要
理事	鳥越 皓之（大手前大学学長）
理事	福井 洋子（大手前短期大学学長）
理事	辰野 久夫
理事	諸富 隆一
理事	廣瀬 努
理事	西村 貞一
理事	藤原 薫

○ 監事（定数 2～3 名、現員 2 名）

監事	大村 武久
監事	中江 正弘

○ 評議員（定数 13～17 名、現員 17 名）

評議員	村瀬 正邦
評議員	福井 就
評議員	佐藤 仁
評議員	高本 進
評議員	小谷 一子
評議員	土井 芳美
評議員	山田 洋子
評議員	島崎 千江子
評議員	福井 要
評議員	鳥越 皓之
評議員	福井 洋子
評議員	辰野 久夫
評議員	諸富 隆一
評議員	柏木 隆雄
評議員	眞下 正宏
評議員	河野 昭子
評議員	梶田 行雄

● 各学校の状況

【校地と校舎】（2019年5月1日現在：学校法人基礎調査報告）

○ 校地面積

大手前大学	66,421 m ²
大手前短期大学	9,703 m ²
大手前栄養製菓学院	730 m ²

○ 建物面積

大手前大学	48,540 m ²
大手前短期大学	7,493 m ²
大手前栄養製菓学院	2,241 m ²

【専任教職員数】（2019年5月1日現在）

大学・短期大学・専門学校

教員	総合文化学部	メディア・芸術学部	現代社会学部	健康栄養学部	国際看護学部	短期大学	栄養製菓学院
教授	14	16	13	6	8	9	4
准教授	8	8	6	4	3	5	4
講師	1	0	3	3	8	2	7
助教	1	0	0	0	5	0	0
助手	0	0	0	0	1	0	0
合計	24	24	22	13	25	16	15

職員	さくら夙川 キャンパス	いたみ稲野 キャンパス	大阪大手前 キャンパス
専任	92	19	40
(内)期限付	15	2	15

【入学定員、入学者数、収容定員、学生数】（2019年5月1日現在）

大学

学 校 名	学部・学科・課程名	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者数	収容定員	2019.5.1現在
大手前大学	大学院 比較文化研究科 博士前期課程 博士後期課程	10 人 3 人	4 人 2 人	4 人 2 人	3 人 2 人	3 人 2 人	20 人 9 人	8 人 4 人
	大学院 計	13 人	6 人	6 人	5 人	5 人	29 人	12 人
	総合文化学部 総合文化学科	190 人 2年次編入 4 人 3年次編入 2 人	1,054 人	980 人	414 人	225 人	776 人	735 人
	総合文化学部 計	190 人	1,054 人	980 人	414 人	225 人	776 人	735 人
	メディア・芸術学部 メディア・芸術学科	180 人 2年次編入 4 人 3年次編入 2 人	792 人	752 人	341 人	222 人	736 人	738 人
	メディア・芸術学部 計	180 人	792 人	752 人	341 人	222 人	736 人	738 人
	現代社会学部 現代社会学科	220 人 2年次編入 4 人 3年次編入 2 人	1,495 人	1,381 人	502 人	268 人	896 人	919 人
	現代社会学部 計	220 人	1,495 人	1,381 人	502 人	268 人	896 人	919 人
	健康栄養学部 管理栄養学科	80 人 3年次編入 16 人	469 人	452 人	148 人	82 人	352 人	347 人
	健康栄養学部 計	80 人	469 人	452 人	148 人	82 人	352 人	347 人
	国際看護学部 看護学科	80 人	618 人	580 人	147 人	84 人	80 人	84 人
	国際看護学部 計	80 人	618 人	580 人	147 人	84 人	80 人	84 人
	大学 計	750 人	4,428 人	4,145 人	1,552 人	881 人	2,840 人	2,823 人
	通信教育部 現代社会学部 現代社会学科	500 人 3年次編入 500 人	120 人	120 人	120 人	113 人	3,000 人	1,916 人
	通信教育部 現代社会学部 計	500 人	120 人	120 人	120 人	113 人	3,000 人	1,916 人

短期大学

大手前短期大学	ライフデザイン総合学科	200 人	308 人	305 人	289 人	230 人	450 人	417 人
	短期大学 計	200 人	308 人	305 人	289 人	230 人	450 人	417 人

専門学校

大手前栄養製菓学院専門学校	衛生専門課程 栄養学科	80 人	86 人	86 人	84 人	78 人	160 人	146 人
	栄養学科 計	80 人	86 人	86 人	84 人	78 人	160 人	146 人
	衛生専門課程 製菓学科 1年コース	40 人	9 人	9 人	9 人	9 人	40 人	9 人
	製菓学科 計	40 人	9 人	9 人	9 人	9 人	40 人	9 人
	栄養製菓学院専門学校 計	120 人	95 人	95 人	93 人	87 人	200 人	155 人
	通信課程(別科)	120 人	55 人	55 人	55 人	55 人	120 人	55 人

【卒業生数、就職者数】（2020年3月卒業生）

大学								(2019年度卒業生)			
学 校 名	学部・学科・課程名			卒業・修了者数		進学者数		就職希望者数 ※		就職者数	
大手前大学	大学院	比較文化研究科									
		博士前期課程		3	人	1	人	1	人	1	人
		博士後期課程		1	人	0	人	1	人	1	人
	総合文化学部	総合文化学科		132	人	3	人	105	人	103	人
	総合文化学部 計			132	人	3	人	105	人	103	人
	メディア・芸術学部	メディア・芸術学科		148	人	2	人	126	人	122	人
	メディア・芸術学部 計			148	人	2	人	126	人	122	人
	現代社会学部	現代社会学科		168	人	7	人	130	人	127	人
	現代社会学部 計			168	人	7	人	130	人	127	人
	健康栄養学部	管理栄養学科		80	人	0	人	77	人	76	人
	健康栄養学部 計			80	人	0	人	77	人	76	人
短期大学											
大手前短期大学	ライフデザイン総合学科			161	人	14	人	131	人	131	人
	短期大学 計			161	人	14	人	131	人	131	人
専門学校											
大手前栄養製菓学院専門学校	衛生専門課程			64	人	11	人	51	人	51	人
	栄養学科(管理栄養含む) 計			64	人	11	人	51	人	51	人
	衛生専門課程			9	人	0	人	9	人	8	人
	製菓学科 計			9	人	0	人	9	人	8	人
	通信課程(別科)			0	人	0	人	0	人	0	人
※「進学者数」の中には、各種専修学校等の入学者も含む。											
※「就職者数」には雇用期間1年未満は含まず。 製菓通信課程は職業あつせん出来ないので数値なし。											

● 事業の概要

2019 年度の事業は、大手前学園中期経営計画の目標である以下の項目に基づいて作成された事業計画を具現化するものである。

- ① 収入の確保
- ② 経費の圧縮
- ③ キャンパスの整備
- ④ 関係会社の見直し
- ⑤ 学園創立 75 周年事業準備
- ⑥ 私立学校法等改正への対応

1. 法 人

<事業計画>

- ① 収入の確保における大学（通学課程）の定員確保について、既存 3 学部、完成年度を迎える健康栄養学部及び新設の国際看護学部での定員充足を目標とし、消費税率変更に伴う学納金の見直しを行う。大学（通信課程）については、今年度においても引き続き黒字を確保する。
- ② 経費の圧縮に向けて、人員の適正化及び人事制度改革を遂行し、経費削減と経費の配分見直しによるモチベーション向上を実現する。また、消費税増税を考慮して前年度並みでの計画の見直しを実施する。
- ③ キャンパス整備において、短期大学の新学科設置ならびにキャンパス移転に向けてさくら夙川キャンパスにおける新校舎建設並びに既存校舎の改築に着手する。また、建設工事に伴う備品等の用地確保のため隣接地を取得する。
- ④ 私立学校法等の改正に伴い、学園 80 周年に向けての新中長期 6 ヶ年計画の策定に取り組む。
- ⑤ 大手前学園創立 75 周年に向けた事業募金の募集を開始する。
- ⑥ 大阪大手前キャンパスにおける今後の学生数増加に対応するため、B 棟に学生ラウンジを設置すべく改修を行う。

【定員確保】

2019 年度の大学（通学課程各学部）及び短期大学における入学者数はいずれも入学定員を上回ることができ、大学（通信教育課程）においても順調に入学生数が増加しており黒字確保を継続できている。

また、学納金の見直しについても、学年進行中の学部を除いて 2020 年度より実施することとなった。

【経費圧縮】

人事制度改革の第1弾として「資格等級制度」の内容を再検討し、新しく「職能基準書」を策定して資格等級を可視化することによって目標を明確にした。また、2021年度のキャンパス統合に向けた適正人員配置を検討し、2020年度に具体化していく。このような施策によって、教職員のモチベーションの向上や意識改革につなげていきたい。

【キャンパス整備】

2020年4月に短期大学歯科衛生学科をさくら夙川キャンパスに開設することに伴い、既存のL棟を改修し、また、2021年度に予定されているいたみ稲野からさくら夙川へのキャンパス移転を受けて、さくら夙川キャンパスの機能を拡大させるため、新学舎建築に着手している。新学舎には、アクティブラーニング等に対応できる多機能教室や、新たな学生食堂を含むコミュニケーションエリアを設置する予定である。さらに、新校舎建設工事によって、備品等の移動場所確保を目的にさくら夙川キャンパス隣接地を購入した。

【新中長期計画策定】

2026年の学園創立80周年に向けた新中長期計画の策定において、中堅職員によるワーキングチームを設けて計画素案を作成するボトムアップ方式を採用し、素案に基づいて役職教職員がブラッシュアップした新中長期計画を策定した。参画意識も向上し、計画実現に向けて「ONE TEAM」として課題に取り組むことができる。

【大手前学園創立75周年記念事業募金】

学園創立75周年に向けたプロジェクトを支援することを目的に、今年度から2022年度にかけて記念募金を募集する。記念事業としては、教育・研究・学生生活の支援、施設設備等の環境整備、地域及び社会貢献、記念式典などを計画しており、1.5億円を目標に広く募集する。

【大阪大手前キャンパスB棟改修】

国際看護学部の年次進行及び健康栄養学部1年生のキャンパス移転によるキャンパス内の学生数増加に伴い学生の居場所や食堂が手狭になることから、B棟1階を学生ラウンジ（食堂）に、また、2階をロッカールームに改修し、学生の満足度向上を図る。なお、改修工事は2020年度に行い夏に完成予定である。

2. 大 学

<事業計画>

① アドミッション改革

全学部において志願者および入学者の増加を達成し、定員確保を目指す。

② 教育改革

「大手前大学の学士課程教育のグランドデザイン」の改定に併せて全学的な教育改革に具体的に取り組んでいく。

③ 学生支援

- ・ 支援体制の構築と生活指導の強化
- ・ 経済的支援の充実
- ・ 学生施設、学生寮の充実
- ・ 課外活動支援

④ 進路支援

教職員、保護者、教育ボランティアが一体となった就職支援を推進する。

⑤ 国際化ビジョン

留学生に対して魅力あるコンテンツ構築を目指し、英語版 Web サイトの見直しを図る。

⑥ 図書館

- ・ 学修支援
- ・ ラーニングコモンズ機能の強化

⑦ 社会連携・地域連携と社会貢献

「地域に活かす」「地域に根ざす」「地域と育つ」「地域と学ぶ」という四つの指標のもと、地域社会との連携や本学の研究成果の社会還元を具体化する。

⑧ 広報戦略

2019年4月開設の「国際看護学部」の広報戦略を実行しするとともに、大学イメージの構築と定員の安定的確保を図る。

⑨ 教職員力の強化

教員には「グランドデザイン」のさらなる推進、また、職員には大学改革推進のため専門性の向上と各種施策に取り組む。

⑩ キャンパス整備

- ・ 大学のブランド化を図り、キャンパスの効率的な活用および広報活動の一環としてキャンパス整備を進めるとともに、2021年のキャンパス統合に向けた整備計画の具現化を図る。

⑪ 情報システム整備

クラウド化による災害時等の環境整備やセキュリティ対策の推進及び全学部生パソコン必携化に向けた取り組みを実践する。

【アドミッション改革】

（１）入試改革について

2020 年度入試より、「公募制推薦入試（A 日程）」「一般入試（A 日程）」において、メディア・芸術芸術学部で実技入試を実施した。

（２）特別選抜入試

「外国人留学生特別入試」では、国内での実施に加え、中国において 3 つの協定校を対象に三年次編入学試験を実施した。

年度	2018		2019		2020	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
上海工商外国語職業学院	4	3	17	14	46	23
江西外語外貿職業学院	-	-	-	-	10	8
現代社会学部四川工商学院	-	-	-	-	1	0

本学にて実施した「外国人留学生特別入試」では、年々志願者が増加している。

年度	2018		2019		2020	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
総合文化学部	13	10	14	6	23	10
メディア・芸術学部	20	18	37	21	38	12
現代社会学部	9	9	55	21	70	23
計	42	37	106	48	131	45

（３）活動について

今年度も幅広い高校から校内ガイダンスの依頼があり、校内ガイダンスへの参加に伴い、高校生とのダイレクトな接点を持つことができた。

高大連携協定校数は 41 校となった。恒例となりつつある文化祭の演劇指導やゴルフ部との高大連携授業など他大学には出来ない連携イベントも引き続き非常に好評であった。高大連携の大型イベントとして、今年度も 2 月には 6 名の先生方と新 3 年生が全員参加（210 名）の大型キャンパス見学会を協定校に実施することが出来、高校内でも重要イベントとして位置づけされている。

協定校からの大学への出願は 5 学部合計で前年対比 111% の出願となった。

【教育改革】

2019年度は、特に次の内容について実行に向けて推進した。

(1) 健康栄養学部カリキュラム改定

2019年度をもって完成年度を迎える健康栄養学部について、次年度に向けて必要なカリキュラム改正を検討し、学部の特性に合わせた単位数に変更した。また、2020年度より全て大阪大手前キャンパスで授業をおこなうこととなる当該学部において、これまでいたみ稲野キャンパスで文系3学部と共通で開講していた科目（共通教育科目や教職課程に関する一部科目）の科目数を絞り、必要な科目を開講する。

(2) 三者面談その他学生に対する履修指導の基準の見直し

2019年度より文系3学部において、リテンション率向上に向けて従来学期ごとのGPAを基準におこなわれてきた履修指導の基準を見直し、学生、保護者、アドバイザー教員による三者面談の新たな基準を設定した。

(3) 2021年度キャンパス統合に向けての準備

2021年度のキャンパス統合に伴い、授業を滞りなく進めるために在学学生ガイダンス及び履修登録を現状から約2週間程度前倒して実施することとした。

< 総合文化学部 >

2018年度の専攻(メジャー)の再編をもとに、「国際文化コース」の「比較文学」専攻(メジャー、以下同様)をなくし、「ヨーロッパ・アメリカ文化」専攻が「ヨーロッパとアメリカの文化・文学」、「日本文化・アジア文化」専攻が「日本とアジアの文化・文学」専攻となり、2020年度に新入生を迎えることとなった。

同様に史学コースは、「考古学」、「地理学」専攻が「考古学・地理学」専攻となって2020年度に新入生を迎えることとなる。

また、2021年度より「スイーツ学」専攻を閉じることが決定した。

< メディア・芸術学部 >

2020年度入試に計画通り実技科目入試を導入し、一般入学試験では435人の志願者があった。

2020年度に向けた専攻(メジャー)再編成では、建築コースは「建築・インテリア」(建築)専攻と「建築・インテリア」(インテリア)専攻として分け、インテリア関係の科目を増やすこととなった。

また2021年度から建築を前面に出してアピールすることを目的として学部名を「建築&芸術学部」と変更することとなり、文部科学省に「学部名変更」の打診を行い、内諾を得た。これを受けて、在学学生、新入生に向けて学部名称変更の説明を順次行うこととなった。

建築が学部名として出ることと関連して、2021年度からは「建築・インテリア」専攻は「建築」専攻、「インテリアデザイン」専攻と名称を変更することとなった。

<現代社会学部（通学課程）>

2020年度に向けた専攻（メジャー）再編成では「ファッションビジネス」専攻を「企業経営」専攻に含め、さらに、企業経営メジャー、心理学メジャー、観光メジャーを充実させた。

<現代社会学部（通信課程）>

2019年度は入学者は微増した。日本語教員養成課程及び心理学は安定的に人気となっている。一方、海外在住の日本人からの問い合わせや出願は増加傾向にあり、海外マーケットの広がりという点では海外在住日本人の日本語教員養成課程へのニーズ拡大など広義の海外マーケットへのアプローチを進めている。

このほか、2021年度から看護学士資格がとれるよう、国際看護学部の教員を中心に準備を進めている。

<健康栄養学部>

健康栄養学部は完成年度を向かえ、科目編成を見直す作業を続け、2020年度から新たなカリキュラムが始動する。

また、1期生の初めての管理栄養士国家試験の結果は、合格率92.4%で新卒者の全国平均と同じ数字であった。

<国際看護学部>

2019年度に大阪キャンパスに1期生を迎え、新しい学舎でキャンパスライフがスタートした。施設設備はすべて新しく、教員も新入生も意欲に満ちた学びを重ねている。

【学生支援】

（1）支援体制・生活指導

学生課の大学職員だけでなく、学生相談室の認定心理師、臨床心理士・健康相談室の看護師、他にスクールカウンセラー、スーパーバイザー等の専門職を配置、協働することで学生の多様性を理解しつつ様々なニーズに応える体制を維持、また、定期的なミーティングを行うことで情報共有しながら学生を支援した。

今年度初の試みとして、いたみ稲野キャンパスでは相談しやすい環境を準備するため、学生相談室では事前申込不要、いつでも何度でも来室できる「ハートフル相談」を実施した。さくら夙川キャンパス学生相談室では、継続の面談が多く、新規の申込を受けられないことが課題となっており、対応策として、月に1度単発相談日を設け、学生のニーズに対応できるようにした。

なお、障害者支援では、定期的に三者面談を実施することで、入り口から出口までの支援内容の確認、見直しを行い、適切な支援を行える体制が定着して来た。

春学期には学生生活ガイダンスを実施、キャンパスルールの伝達やサポート体制の紹介、ブラックバイト等のトラブルや犯罪防止のための注意喚起を行い、新入生の自転車並びに單車通学希望者には警察の交通安全課の方を招聘、交通安全講習会を実施した。

また、昨年度より、自転車・バイク通学許可を一年ごとの更新とし、自転車保険、自賠責保険加入を確認することにより、学生が安心して通学出来るように体制を整えている。

(2) 経済的支援

経済的に困窮する学生（留学生を含む）に対し、学園及び大学の奨学金制度、並びに日本学生支援機構の奨学金制度や、高等教育の修学支援新制度の在学予約、学費分納・延納制度を運営し、希望する学生が確実に応募できるように掲示板等による周知や日本学生支援機構奨学金継続の案内発送も行った。また、民間奨学金制度への推薦や各種教育ローンの紹介、そのために必要な支援なども行った。

(3) 学生施設・学生寮の充実

学生施設としては、さくら夙川キャンパスに車いすの男子学生を受け入れるにあたり、男子（多目的）トイレにトイレフック、A棟エレベーターに鏡を設置した。また、教室の座席や学生ラウンジに「身障者優先席」を設定した。

学生寮においては、新入寮生歓迎会・各種セミナー・イベントを開催し、留学生を含む寮生の交流が活発になるように取り組んだ。また、大学の長期休暇中も寮に滞在出来る制度を維持し、学費をアルバイトで捻出したい留学生に好評であった。

(4) 課外活動支援

<団体支援>

課外活動団体支援として、従来の課外活動委員会を再編し、課外活動本部を設置してリーダー育成による執行部の強化を図るとともに、幹部部員の育成を目的としたリーダーズキャンプで指導や助言を行った。

また、公認団体への施設利用許可や助成金交付を行い、クラブ活動の活性化を図った。

<イベント支援>

学生主催イベントへの支援として、4月には、さくら夙川キャンパスにおいて、公認課外活動団体による新入生歓迎と地域交流を目的とした「さくら祭」、11月には、いたみ稲野キャンパスにおいて、最大イベント「大手前祭」が、それぞれ開催された。



(5) 課外活動団体の活躍

<ゴルフ部>

大手前大学ゴルフ部女子が、9月に芦屋市で行われた関西学生の秋季1部学校対抗戦で優勝し、全国大会「第20回信夫杯争奪日本女子大学ゴルフ対抗戦」(千葉県野田市)への出場を決め、5位に輝いた。

【国際化ビジョン】

(1) 海外提携大学 拡充

①大学間協定

中国 4校：江西外語外貿職業学院、河北外国語学院、四川城市職業学院、四川工商学院

韓国 2校：建国大学校、延世大学

(2) 海外短期研修プログラム実績

① 韓国短期研修 (研修期間：2019年8月3日～8月21日)

研修地：建国大学 参加者 18名 (大学生 16名、短大生 2名)

② タイ日本語教師インターンシップ (研修期間：2020年2月10日～2月20日)

研修地：Mahidol 高校 参加者 6名 (大学生 6名)



(3) 交換留学プログラム 実績

<学生派遣>

① アメリカ・チェメキタコミュニティカレッジ / 派遣 6名 (1年間：1名、半年 5名)

② フランス・パリ国立高等美術学校 / 派遣 1名 (1学期)

③ 韓国・世宗大学 / 派遣 4名 (1学期)

④ 韓国・カチョン大学 / 派遣 1名 (1学期)

<学生受入>

① アメリカ・チェメキタコミュニティカレッジ / 受入 2名 (1学期 1名、1年間 1名)

- ② 韓 国・世宗大学 / 受入 3 名 (1 学期)
- ③ 中 国・山東大学威海分校 / 受入 2 名 (1 年間)
- ④ 韓 国・世宗大学 / 受入 2 名 (1 学期)
- ⑤ 韓 国・カチョン大学 / 受入 1 名 (1 学期)

(4) 国際交流・課外イベント

① 留学生懇親会の開催

新入留学生の歓迎と在籍留学生との交流を目的に、4 月 13 日 (土) 11 時 30 分からさくら夙川キャンパス食堂にて懇親会を実施した。大学院、大学、短大に在籍している留学生、交換留学生が 80 名程度集まり学生間の交流だけでなく日本にまつわるクイズ大会や、ペーパータワーを作って高さを競うアクティビティ等にも取り組み、会は盛況のうちに終わった。



② 一般社団法人主催の留学生バスツアーへの参加

4 月 21 日 (日) 留学生対象「春の神武祭：古代衣装を着けて参道パレード」ツアーに本学の留学生 16 名を派遣した。本ツアーは、当該団体が留学生支援の一環として年に数回ツアーを企画し、国際交流センターに招待の案内があるというもの。



③ 留学生と一緒にランチしましょ

留学生と日本人学生との交流の一環としてお昼休みを利用し「留学生と一緒にランチしましょ」を国際交流ラウンジで実施した。平均して 5～6 名の日本人が留学生との交流を目的に来室していた。

④ ランチタイムアクティビティ

留学生と本学学生との交流を目的に、昼食時間を利用したランチタイムアクティビティを国際交流ラウンジで 2 回実施した。(4 月：一緒に作ろうたこ焼き作り、6 月：

チョコレートフォンデュ)



⑤ 国際看護学部 of 学生と留学生との交流会の開催 (5/18、6/15、7/16、10/26)

国際看護学部 of 学生有志と留学生との交流促進を目的に、交流会を大阪キャンパスで4回実施した。国際看護学部 of 学生によるキャンパスツアー、留学生による母国の医療制度のプレゼン、大阪城見学、かるた、書道、折り紙等を通じて学生間の交流ができる充実した会となった。



⑥ 国際交流バスツアー

5月25日(土) 留学生21名、日本人学生18名、職員3名でバスツアーを実施した。今年は淡路島のイングラントの丘を訪問し、玉ねぎ収穫体験をした。お天気にも恵まれ、学年と学部を超えた学生間交流ができる貴重な機会となった。



⑦ 留学生の茶道体験

留学生に日本文化を体験してもらうことを目的に、本学茶道部を訪問した。本学学生から作法やお茶の飲み方などの説明を受け、留学生も実際に体験し、日本文化に触れる貴重な時間となった。



⑧ 2019年度春学期交換留学生送別会と秋学期交換留学生の壮行会

交換留学を終え帰国予定の留学生と秋学期に交換留学で渡航する学生の壮行会を

7月22日（月）に実施した。学生たちはお別れを惜しみつつ、近い将来の再会を約束していた。



⑨ LEO リーダーズキャンプ開催

9月6日～9月8日（2泊3日）に朝来市にて、学生と引率教員が、LEO サマーキャンプを行った。英語力およびリーダーシップを身につけることを目的とし毎年実施している。

⑩ 留学生に日本語会話サポーターの紹介

留学生支援の一環として、本学での学習やキャンパスライフにスムーズに適應できるよう、希望する留学生には日本語会話サポーターを紹介している。学生と交流を深めながら日本語力の向上と学生間の異文化交流促進にも繋げたい。



⑪ 留学生との個人面談実施

アルバイトや日本での生活、健康、授業、卒業後の進路などの情報把握と悩み相談などを含む留学生支援の一環として、大学と短大に在籍している留学生約80名と個人面談をおこなった。要支援の留学生には今後も適宜支援し、本学への満足度アップに繋げていきたい。

⑫ 短大日本語コース交流会

大手前短期大学留学生日本語コース在籍者と短大学長を含めた関係教職員との交流会を、9月25日（水）いたみ稲野キャンパスで実施した。留学生と教職員とが授業以外で交流できる貴重な会となった。



⑬ 国際交流センター主催スピーチ大会開催

毎年恒例のスピーチ大会を11月9日（土）いたみ稲野キャンパス B ホールで実施し

た。今年度の各部門の出場者は「英語スピーチ部門」5名、「海外研修経験者部門」5名、「留学生部門」5名。出場者たちは日ごろの学習と練習の成果を発揮できる大会となった。



⑭ 国際交流ポイント制度表彰

学生の国際交流への貢献促進と学生の自立性を育てることを目指し、国際交流ポイント制度を発足して3年目。2019年度の表彰対象者は3名。7月26日（金）学長室にて行った。



⑮ 中国学長一行団受入れ

日中私学大学校長シンポジウムに出席を予定していた中国の大学学長 60 名がさくら夙川キャンパスを訪問した。キャンパスツアーや教員間との交流ならびに大学間調印式も行った。



⑯ Halloween イベント開催

10月30日（水）さくら夙川キャンパス内国際交流ラウンジにて Halloween イベントを開催した。

本学学生と留学生ならびに教職員が参加し、ビンゴゲームやビー玉をお箸で運ぶゲームなどを実施し、学部や国籍を問わず参加した学生や教職員全員で大いに盛りあがった。



⑰中国協定校である四川城市職業学院からの表敬訪問

12月16日（月）四川城市職員学院より理事長、学長を含めた10名の表敬訪問があり、本学も理事長、学長をはじめ関係教職員で対応をおこない、双方大学の関係構築とともに、今後の学術交流について協議した。



⑱ クリスマス会の開催

12月21日（土）いたみ稲野キャンパスでクリスマス会を実施した。当日は卒業生、在学生、関係教職員が参加して盛り上がる会となった。



⑲西宮市国際交流協会主催：留学生にほんごスピーチ大会へ出場

2月9日（日）西宮フレンテホールにて開催されたスピーチ大会に、大学より1名、短大より2名の留学生が出場し、大学生の留学生が優秀賞を受賞した。



【図書館】

（１）学習支援

①蔵書構築

2019年度は大学7,115点、短期大学1,485点（うち歯科衛生士学科（2020年4月開設）用資料1,034点）、専門学校資料247点を資産として受入れた。うち寄贈資料1,353点である。総蔵書数は大学313,497点、短大61,948点、専門学校18,428点である（いずれも視聴覚資料を含む）。

②教育との連携

（ア）大学新生への図書館利用指導は「キャリアデザインⅠ」にて行った。ゲーム感覚で図書館の使い方や資料の見方などが学べる本館オリジナルプログラム「図書館検定」で、担当教員の判断によりさまざまな取り組み方であったが全クラスで実施さ

れた。カリキュラムが異なる国際看護学部は「キャリアプランニング」で図書館の使い方などを指導した。2年生は「キャリアデザインⅢ」にて「レポート作成」に焦点を当てて一斉授業を行い、その後クラス別の分野にあわせて図書館ツアーや情報検索などを指導した。健康栄養学部3年生は「応用セミナー」にて情報入手法などを指導した。

(イ)短期大学は新入生オリエンテーションにて「使ってみよう！伊丹図書館」を実施した。図書館の紹介に続き、館内にてOPAC検索に取り組んだ。デザイン系や建築系の授業では資料提供、「キャリアプランニング」では課題にあわせてミニ特集展示を行った。

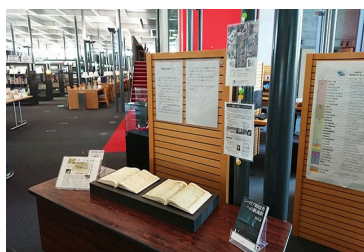
(ウ)ゼミナールや授業クラスによる授業成果を中庭側ガラス壁面やエントランスにて展示した。事前告知や事後報告などは図書館サイトやCELLfacebookページを通じて行った。

(エ)留学生の増加にあわせて日本語検定、日本語学習雑誌、留学生対象の実用書などを購入している。必要とする学生により効果的に利用してもらうため、教員と検討のうえ伊丹図書館に留学生支援コーナーを設置した。

③「広範な学び」の誘発

(ア)6月CELLにて所蔵資料『わが青春の記録』（四國五郎著）を紹介するミニ展示を設置、facebookページに掲載したところ、著者の遺族や出版社よりコメントが寄せられた。大阪大学総合学術博物館（豊中市）で「四國五郎展 ～シベリアからヒロシマへ～」が開催されていたこともあり、facebookページ記事には500を超す閲覧者があった。

(イ)トークライブ in CELLとして、7月山下真知子教授による「記憶をかたちに」を開催。1960～70年代の神戸周辺のファッションや若者文化を振り返る内容で、当時を知らない学生も興味深げに聞き入っていた。関連の特集展示には当時のファッション誌（私物）も展示し、学生たちや学外利用者など多くの人々が足を止め、手に取って目を通していった。



山下真知子先生
トークライブ in CELL

トークテーマ
記憶をかたちに
『アタンの昭和お洋服
メモリー』がでるまで

日時
7月23日（火）
12：30-13：00

場所
5F アイデアリ-CELL
CE104

※予約不要



(ウ)11月伊丹館にて製本ワークショップを開催。 初心者向けの「和装本づくり」は主に司書課程や出版専攻の学生が参加、経験者向けの「ブック型ノートづくり」は要望により追加開催した。

(エ)授業内容や学内で催される講演会、図書館主催イベント、娯楽・教養などさまざまなテーマで特集展示を行った。展示カタログ（小冊子）はテーマに関するブックガイドとして利用できるため、過去分もあわせて全タイトルを自由に持ち帰れるように用意した。



④その他

大阪図書館では管理栄養士国家試験を受験する学生への応援メッセージを教員や国試対策室、研究室などに依頼し、受験・就職関係コーナーにて紹介した。



(2) 研究支援

①リポジトリの運営

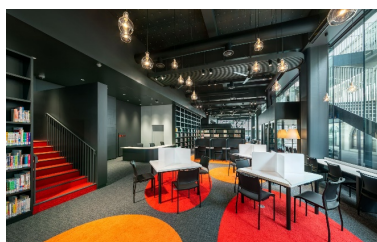
本学の学術生産物をリポジトリを通してインターネット上で公開している。2019年度は『大手前大学論集19号』『大手前短期大学研究集録第38号』『大手前大学IIEジャーナル第5号』等の定期刊行物を公開した。

(3) その他

①大阪図書館リニューアル

2019年4月大阪大手前キャンパスC棟1階に大阪図書館がリニューアルオープンした。これより図書館事務をCELLにて集中化し、駐在スタッフは利用者サービスに特化できるようになった。授業期間の開館時間を8:30～20:00に延長、学生対象のオリエンテー

ションやガイダンスの実施、教員の教育や研究支援、特集展示、レポート作成や就活の支援コーナー設置などを行い、利用者サービスが向上した。2020年3月には、次年度より健康栄養学部の全授業が大阪キャンパスで開講されることに備えて、学習や研究に資する図書約900冊、雑誌7タイトルを伊丹館から移設し、蔵書の充実を図った。



②『大学図書館ランキング』

『大学ランキング2020』（朝日新聞出版）の大学図書館の項目にて本館が全国の国公立大学777校のうち78位にランクインした。蔵書、受入れ、桎田日、図書館日の指数の総合評価による。

③新型コロナウイルス対策

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2月末より各館にて換気を十分に行い（換気装置を点検、扉や窓の開放）、手指消毒液の利用促進、Webサイトでの注意喚起等の措置を行った。来館できない場合は郵送や宅配による返却を認めることとした。

【社会連携・地域連携・社会貢献】

（1）大手前シティカレッジ（OCC）

①公開講座

2019年度は前期「文献と考古学から探る 阪神地域の古代と国際交流」と後期「まちづくりとデザインから見る オリンピック・パラリンピック」それぞれ別のテーマで計8回開催した。

（前期）

開講日	内容	講師	出席者数
4/13	阪神地域の古墳と国際交流	森下 章司	80名
5/11	阪神地域の古代氏族	溝口 優樹	79名
6/8	古代日本の国際交流と阪神地域	溝口 優樹	79名
7/13	考古学からみた古代の大阪－難波宮・京を中心に－	市川 創※	74名

9/21	1972年札幌オリンピックにみる都市と建築	角 哲（※）	30名
------	-----------------------	--------	-----

10/19	オリンピック競技場のデザイン	玉田 浩之	29 名
11/16	東京オリンピックエンブレム 1964 / 2020	松本 尚	27 名
12/21	インバウンドにおけるホテル・民泊の展望	川島 正章	24 名

(後期)

※名古屋市立大学大学院 芸術工学研究科

②公開実技講座「大学で絵画を学ぶ」

2019 年度は人物画を前期と後期の 2 期に分けて開講した。
参加者数は前期 20 名、後期 19 名であった。



開講日	内容	講師
5 月 18・25 日 6 月 1・8 日	人物画を描く (着衣クロッキー) (裸婦クロッキー)	井澤幸三 廣田政生
6 月 22・29 日 7 月 6 日	人物画を描く (裸婦)	

③実践英会話講座 (社会人向けクラス)

春学期は 20 講座 (受講生 186 名)、秋学期は 17 講座 (同 157 名) を開講した。
例年開講している人気の講座で、2019 年度も約 8 割の受講生がリピーターとなっている。

(2) 地域・社会連携事業

①学生がデザイン「西宮ご当地マスキングテープ」

メディア・芸術学部造形美術専攻のゼミ生がデザインした「西宮ご当地マスキングテープ」6 種が、西宮ロフトにて 2019 年 10 月 18 日 (金) より販売された。

兵庫県西宮市にキャンパスを置く大学として地元貢献したいという思いがあり、人気商品であるマスキングテープを通し、西宮の魅力を伝えたいと「西宮ご当地マスキングテープ」をテーマに、デザインを学ぶ 3・4 年生が、制作に取り組んだ。

学生たちは西宮についてのリサーチ、マスキングテープの動向および市場調査を行い、それぞれ数案のデザインを考案。学内選考を経て、西宮の名産や名所などをモチーフにしたものが採用となり、マスキングテープ 6 種が西宮ロフトにて限定販売された。

□「西宮ご当地マスキングテープ」×大手前大学 メディア・芸術学部

・和を灯す、SAKAGURA、名所切手、甲子園球場、えべっさん、Sweets

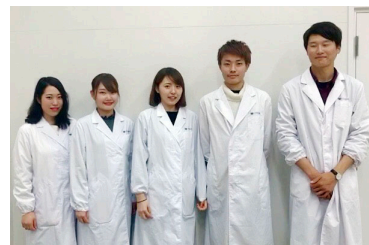


②学生考案「ヤンニョムチキンライス」

健康栄養学部の2年生が、産学連携企画として同社の商品「こんがりコロコロチキン」を使ったチキン丼メニューの開発に取り組んだ。

当時1年生のキャリアデザインの授業で希望者が「健康」をテーマとしてメニューを考案。11班の中から選ばれた「ヤンニョムチキンライス」が、2019年7月1日より兵庫県と愛知県の店舗で販売された。

コチュジャンベースの甘辛ダレを使用したヤンニョムチキンと食物繊維豊富なもち麦を組み合わせたヘルシーな丼メニューで、日本人の成人男性・女性ともに食物繊維の摂取目標量に達していないことを受け、少しでも食物繊維の摂取量を増やすために、食物繊維豊富なもち麦を加えたメニューを学生たちが考えた。



③「スイーツ公開講座」を開催

大手前大学・大手前短期大学では、伊丹市に本社を置く松谷化学工業株式会社、伊丹市との合同主催による「希少糖スイーツ公開講座」を2019年12月14日（土）にいたみ稲野キャンパスにて開催した。毎回応募が殺到する人気のイベントで、4回目となる今回は倍率約6倍の中、当選した40名の市民が参加した。

デモンストラレーションの後、ケーキ作りの実習をして試食。作ったケーキは持ち帰り、ひと足早いクリスマスとなった。試食の後は、希少糖やケーキ作りについての質問も数多くいただき、受講生の関心の高さが伺えた。



④「第2回 食と健康セミナー」開催

2020年2月20日(木)に大手前大学と伊丹市、松谷化学工業株式会社による産官学連携事業「第2回 食と健康セミナー」が伊丹市立生涯学習センター・ラストホールで開催された。

第1部では本学の健康栄養学部・山本國夫先生による講演「時間栄養学とメタボ予防」があった。朝食中心の食事が体重減少効果や血糖値の改善効果に優れており、朝食を食べることで昼食後の血糖上昇が抑制される効果など、興味深い内容となった。第2部では希少糖普及協会理事による講演「希少糖：美味しくて健康に役立つ糖」、第3部では伊丹市栄養士会副会長による「伊丹地域での栄養士活動報告」などがあった。

当日は約100名の来場となり、盛況のうちに終了した。サンテレビによる山本先生のインタビューも行われ、後日、その様子が放映された。



⑤「野外アートフェスティバル in にしのみや」

第28回「野外アートフェスティバル in にしのみや」(西宮市主催)が2019年10月19日(土)・20日(日)の2日間、市役所前の六湛寺公園で開催された。大手前大学からは、メディア・芸術学部の久木一直教授(デザイン・造形美術専攻)のゼミ生らが参加し、ワークショップを開催した。

イベントは毎年開催しており、今年のテーマは「スタート」。西宮市内の小学校、および市が災害支援して宮城県の小学校から集まった約1200作品を展示した。西宮芸術文化協会による美術と音楽のイベントが組まれ、西宮市内の大学からは子供たちにアートの楽しさを体験するテントが設けられた。

大手前大学は久木ゼミナールの学生5名がアイデアを凝らした企画「ヨーイすたーと」を実施。モールで動物や野菜をつくりガチャケースに入れてスライダーを転がす創作と遊びを楽しんでもらった。学生5名のほか4年生の卒業ゼミから3名の助けを借りて、大手前大学のテントでは2日間で380人の子供たちが参加した。



⑥「西宮ストリートギャラリー」

西宮市との連携で、阪神本線（阪神西宮駅）以北の札場筋線東西に位置する三井住友銀行、三菱 UFJ 銀行の各西宮支店に設置しているストリートギャラリーにおいて、2019 年 11 月 1 日より 1 か月間「大手前大学メディア・芸術学部/2019 ストリートギャラリー」を実施した。

西宮市では、市内で活動する団体・グループや保育園児の方々に、絵画や工芸等の作品の発表の場を提供することにより市民の心のふれあいを図り、教育と文化の香り高い街づくりを目指すため、札場筋線の阪神本線（阪神西宮駅）以北の東西に位置する三井住友銀行、三菱 UFJ 銀行の各西宮支店の協力を得て「ストリートギャラリー」を設置。本学は今回初めて参加し、三井住友銀行では染色、三菱 UFJ 銀行ではマンガ・アニメーションの作品を 11 月より約 1 か月間展示した。



⑦京丹後市との連携事業

京丹後市域学連携事業の一環で、本学は 2014 年度から京丹後市での活動をはじめ、久美浜町蒲井・旭地区を中心に 6 年間活動を進めてきた。当初はひとつのゼミのみが関わっていたが、現在ではメディア・芸術学部を中心に、複数のゼミの学生たちが京丹後市で精力的に活動をしている。

2019 年 11 月 23 日（土・祝）には、さくら夙川キャンパス CELL フォーラムにて、この一年間活動してきた成果を発表する場として、また、大学と地域の連携を支える京丹後市夢まち創り大学事業の一環として「2019 年度大手前大学 京丹後活動報告会」を開催。9 グループ約 30 名の学生が参加し、映像作品の上映や成果内容のプレゼンテーションを行った。京丹後市から 2 名、一般財団法人 地域公共人材開発機構より 1 名をお招きし、それぞれの発表について講評をいただいた。



⑦ 「堺プロジェクションアート・アワード」

堺市役所の展望ロビーを利用して大学生 4 チームが制作した映像を窓に投影する「2019 堺プロジェクションアート・アワード」において、大手前大学の学生チーム「ミュラミノフ」が第 2 位となる準優勝を受賞した。

ミュラミノフは、堺市をテーマに作曲したオリジナルソングに合わせて、愉快的仲間たちが登場するミュージックビデオ風の作品「三本の槍」を制作した。



⑧ 西宮市立中学校「トライやるウィーク」

兵庫県教育委員会が実施している公立中学校の 2 年生を対象とした社会・職場体験プログラム「トライやる・ウィーク」。大手前大学では苦楽園中学校の生徒 2 名を 2019 年 5 月 15 日（水）から 3 日間、大社中学校の生徒 4 名を 5 月 22 日（水）から 3 日間、それぞれ受け入れ、学内の 4 つの職場（図書館・史学研究所・製菓研究室・造形美術研究室）で仕事や実習を体験してもらった。

図書館では図書の装備やデータ入力、カウンターでの貸出・返却手続き。史学研究所では勾玉や鏡作り、製菓研究室ではお菓子作りに取り組み、造形美術研究室では自らデザインしたシール作りなど実習が多い体験となり、将来の仕事や社会理解の一助となった。



【広報戦略】

（１）大学イメージの構築

2015 年募集より継続して打ち出してきたキャッチコピー「Find! 答えは大手前大学にある」に加え、あらたな宣伝コピー「ともに学び、ともに見つける」を打ち出し、1 人ひとりに寄り添う教育に取り組んでいる大手前大学をアピールした。その結果、「学生の面倒見が良い（女子）」、「交通の便が良い（女子）」、「明るい（女子）」と大学に対する認知や印象も向上がみられた。

また、本学の特徴である「レイトスペシャライゼーション」「学部を超えて学べる仕組み」「実践英語プログラム」「建築」を中心とし宣伝広告を実施、さらに市場では「経済・経営」分野の人気もあることから、「現代社会学部」の募集にも比重をかけ、戦略的な宣伝広告を配信した。

2019 年度オープンキャンパスにおいては、大阪大手前キャンパスでの開催が新たに加わり、2 キャンパスでの開催を実施した。

【教職員力の強化】

教員には、FD において教授法や課題解決に向けた議論をとおして教育力の向上を引き続き図っている。また、2021 年度からスタートを予定している PC 必携化に向けて、WG を立ち上げ準備を進めているところである。

職員には、人事制度改革を法人本部主導でとり進めており、それぞれの階層別で必要とされる職務能力を明確にして、レベルアップのため自主性の醸成をはかっている。

また、意欲ある若手職員による中長期計画策定の WG を 1 年かけて活動させ、職員のアドミニストレーターとしての力量を高める取り組みを行った。

【キャンパス整備】

2020 年 4 月の短期大学歯科衛生学科開設に向けて、既存の L 棟を全面改修し、基礎歯科実習室、臨床歯科実習室、エックス線撮影室をはじめ、大小 5 つの教室とロッカー室、個人研究室を作り、新たな教育の場の整備を行った。

基礎歯科実習室ではマネキンをはじめ歯科予防処置や歯科診療補助で使用する機器を備え、臨床歯科実習室では歯科チェアを設置して実習が実施できるようになっている。



【情報システム整備】（教育・学習環境整備）

キャンパス統合計画を受け、クライアント関係のリプレイススケジュールを一部見直し、情報環境の延命措置をとって 2019 年度がスタートした。あわせて、大学では 2021 年度から学生 PC 必携化がスタートすることから、その完成年度である 2024 年度を見据えたパソコン教室・機器整備が必要となった。2018 年度から通信教育課程で本格稼働を開始したライブ授業システムは安定運用ができており、今後の継続に向けた省力化と教育の質向上を目的にチュータによる授業支援を開始した。デジタル教材制作関連では、教職員と学生アルバイトによる制作手法が確立できたことで、学内外に認知されつつある。

新たに開設した国際看護学部では、デジタル教科書閲覧のための Windows タブレット端末を全員必携とし、メーカー、導入業者にも協力を要請し、大きなトラブルなく初年度を終えることができた。今後の ICT 活用教育やデータ活用の視点から、完成年度以降のシステム見直しも視野に入れた情報収集・共有に着手する必要がある。

事務系システムにおいては、学園全体の業務効率化を目指した RPA の導入検討や、既存システムの効率的運用に向けた取り組みを継続していく。

（1）教育・学習環境整備

教育・学習用情報機器について、さくら夙川キャンパスのパソコン教室を中心に機器更新を実施し、この先 6 年程度の安定運用が見込まれている。夙川・伊丹キャンパスの研究室についても、これまでのデスクトップから 2in1 タイプの可搬型パソコンとし、今後の学生 PC 必携化や授業での活用につながる整備を行った。

学生 PC 必携化については、大学を中心としたワーキンググループが立ち上がり、他大学や先行する本学国際看護学部の事例に倣いつつ、本学として最適な実施方法の検討を進めている。現状では、スペックを指定した上で学生が各自で調達することを予定しており、サポートに不安を持つ学生のためには、大学生協でのサポートプランつき販売の検討をお願いしている。授業での活用については、引き続き教員を中心とした組織で検討し、複数回の FD やメジャーごとでの活用方法立案が計画されている。

今後は引き続き、2 キャンパス化と学生 PC 必携化の方向性を見据え、新たな教育手法の導入と学園の更なる ICT 化に向けた検討を重ねていく。

① ICT 活用推進

2010 年に通信教育課程に導入した el-Campus は、徐々に活用の幅をひろげ、通学制出欠管理機能、お知らせ掲載機能、キャリアデザイン機能をはじめ、対面授業の授業支援機能も実装し、大学通学制コア授業を通じて多くの教員が活用できるようになった。

その結果、教員数・授業数ベースでの LMS 利用率はほぼ 100%に達しており、教員からの問合せもほとんどない状況が続いている。

また、デジタル教材制作関連では、教職員と学生アルバイトによる制作手法が確立できており、このノウハウをもとに高大連携の可能性が見出せている。

さらに、メーカーはじめ協力企業からも本学の取り組みが注目され、複数の web ニュースサイトなどで広く取り上げられた。これらの実践は、「大学 e ラーニング協議会 & 日本リメディアル教育学会合同フォーラム 2019」で実践報告として発表した。

② インターネットライブ配信の改善

2018 年度から通信教育課程で本格的に運用開始したメディア授業（ライブ型）は、IT 技術・収録技術だけでなく授業技術やサポート体制でも安定運用ができています。操作が容易な機器を選定済で、2020 年度は通信教育部事務棟を配信拠点とし、省力化とトラブル時の即時対応が可能となる見込み。

また、遠隔ライブ配信授業のノウハウは非常に有用であり、今後の学園内外での活用に役立つと思われる。

③ 国際看護学部 of ICT 活用

2019 年度開設の国際看護学部では、学生負担の軽減と効率的な臨地実習を実現するためにデジタル教科書を導入した。一方で、本来デジタル教科書のメリットとして、閲覧状況をデータ化・可視化することで即座に授業に反映できることや、学習ログと成績の相関を分析することでの手厚い学習サポートなどが考えられ、今後に向けて検討していく。

④ 事務系システムの効果的な運用

学園全体の業務効率改善を目指した RPA の導入検討に情報メディアセンターとしてもかかわっている。RPA は本来、実務担当者が自分でロボット設定をすることで、定型業務を夜間などに自動で終わらせるものであるため、広く研修の機会を設定していく。

3. 短期大学

<事業計画>

① 教務関連

- ・「留学生日本語コース」を新設し、留学生の受け入れを促進する
- ・「就職に強い短期大学」としてのカリキュラム改革を継続する
- ・ビジネス系資格高水準取得率のための取り組みを継続する

② 就職関連

- ・就職内定率の定着を図るとともに業界就活対策を検討する
- ・「就職に強い短期大学」のブランド構築のため、対策や広報をさらに強化する

③ 新学科設置

- ・2020 年 4 月開設予定の「歯科衛生学科」の開設準備を進める

④ その他

- ・就業力育成への取り組みの一環として問題解決能力を育成する
- ・大学編入を目指す学生へのサポート体制を継続する

- ・地域及び企業との連携を強化する

【教務関連】

(1) カリキュラム改革

2018 年度に決定済ではあるが、2020 年度からは「就職に強い短期大学」をさらに可視化するカリキュラムとして、現行の 7 コースから 5 コース（うち 1 コースは留学生日本語コース）の専門コースに変更した。

また、難関私立国公立大学編入学を目指す「編入学プログラム」をより強化すべく、従来講座として開講していた編入学対策の授業（小論文・英語関係）を「ステップアップ科目」として共通教育科目に配当することを決定した。

「就職に強い短期大学」を維持・強化しながら、「編入学にも強い短期大学」を実現すべく必要に応じて全学的に施策をフォローしていく予定である。

① 「留学生日本語コース」の新設

2019 年度に新たに「留学生日本語コース」を開設した。5 名の留学生が入学し日本語教育は順調に進んでおり、学習状況も良好である。

なお、入国に関して、留学生の語学力は少なくとも N3 以上は要求することになっている。

② アクティブラーニングの普遍化

2019 年度より、15 回の授業計画において、授業実施回ごとに予習・復習の内容及び時間を明確化した。学生は授業を受けるにあたり、事前にどのような準備が必要なのか、また、授業終了後に復習するポイントは何かということが分かりやすくなり、それぞれの授業において、アクティブラーニングを進めやすくなった。

③ ビジネス系資格の取得推進

取得を目標とするビジネス系資格を見直し、新たに選定及び授業・補習講座を含めた対策を検討した。

2020 年度カリキュラムより、「日商簿記検定試験 2 級」や「ファイナンシャルプランナー 3 級」の取得を目指すべく新たな科目を開講することが決定した。これらの資格取得を目指す科目を開講し、学生のよりビジネスマインドの涵養ならびに就職戦線での活躍を強化することが期待される。

従来の資格取得科目をより上級の資格取得を目指す学生に対応したものに強化し、新規のビジネス系資格科目をフォローする資格取得対策講座も併せて実施することも検討して資格取得率の向上を実行していく。

④ 高等教育の無償化制度への対応

2020 年 4 月より施行される「高等教育の無償化制度」の対応として実務経験を持つ教員が、その実務経験を担当する授業科目にどのように活かしているのかをシラバスに記載するようにした。これにより、機関要件の準備を進めていくことにした。

【就職関連】

就職内定率の定着及び「公務員」「金融業界」「エアライン業界」等への内定拡大に向けて、1年生春学期に実施する「夏季インターンシップ」では、就職希望者の約半数の参加者を確保し、職業観の涵養を図っている。また、秋学期に開催する「業界研究セミナー」では、事業内容や仕事理解に努め、その後の「学内合同企業セミナー」においては応募企業を自ら選択できるよう、その判断力を醸成している。

さらに、面接練習においては、「勇気づけの面接練習会」を皮切りに、「本番の面接練習会」、「ステップアップ面接練習会」と段階的に面接力を養成できる仕組みを構築している。

その後、完全個別指導に移行し、求人紹介と合わせて内定獲得へ向けた個別支援を徹底している。内定率は、ここ数年 100%に近い数字で推移しており、2019 年度は 2017 年度以来の 100%を達成した。



(1) PS の育成による就職率のさらなる向上

2018 年度に新たに立ち上がった広報・支援活動を行う在学生スタッフ「TOT」の活動は、オープンキャンパスで高校生に自学の説明を行うなどコミュニケーション力やプレゼンテーション力の養成に効果があり、一定の就職実績を獲得している。さらに伊丹アピールプランなど社会人に対してプレゼンテーションを行う機会のある産学官連携の PBL を増やしていきたい。

(2) キャリア関係科目の内容の検討と再構築

①「キャリアデザイン」(春学期)

2019 年度で 3 回目を迎えたが、就職・進学希望を問わずすべての学生の履修を推奨し、主体性や問題解決力をはじめとする汎用的能力の開発を目的としている。多くの学生がグループワークを通してチームワークを構築し、リーダーシップの発揮も体験できる内容となっている。グループワークに入り易くなったとの意見もあり、効果の一端が垣間見える。また、インターンシップの説明や体験談もこの授業を通して

実施しており、重要な役割を担っている。

②「キャリアプランニング」(秋学期)

就職希望者全員に対して、「キャリアベーシック」とのセット履修を推奨し、就職活動に必要な知識・ノウハウの全般的な習得を目的としている。今年度は「学びと社会のつながり」「業界・企業研究の方法」「時事・一般常識」を学習する計画になっている。なお、多岐にわたる就職支援プログラムと連動し、その告知や学生の申し込み状況のチェックを行うなど、座学と実践力を結び付ける極めて重要な役割を担っている。

(3)「就職に強い短期大学」としてのブランド構築

各就職支援プログラムの実施結果については、短期大学 Web サイトに適宜新着情報を掲載している。Web サイトやパンフレット等において、近年の 100%あるいは 100%に近い就職率や手厚い就職支援プログラムを紹介するとともに、「就職に強い短期大学」のコミュニケーションマークの掲載をより多く行うことにより、ブランド力の向上を目指している。



【新学科設置】

2019 年 3 月末に歯科衛生学科（入学定員 70 人、収容定員 210 人、3 年課程）の設置認可を文部科学省に申請し、同年 9 月、さくら夙川キャンパスにおける設置が認可された。

学生募集の出遅れが心配されたが、学生募集状況は非常に好調であった。

今年度の入試結果は下表の通りである。

＜2020 年度歯科衛生学科入試結果＞

	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
歯科衛生学科	139	135	82	77

【その他】

①就業力育成へ向けての今後の取り組み

昨年と同様に就業力育成へ向けて①地域連携、②課外活動の充実、③学生の教える能力の育成、④グループワークの 4 つを実践した。

(ア) 地域貢献活動

- ・「こぼと保育所」・・・保育補助を行い、保育士の先生や子供たちとのコミュニケーションの経験を積むことができた。
- ・「アイ愛センター」・・・障がいのある方々との協力や手助けなどの活動を通じてボランティア精神を養い自信をつけることができた。

- ・「JR 猪名寺・尼崎駅の装飾展示制作」・・・「駅構内のマナー啓発」をテーマに、構内に「歩きスマホのマナー啓発」ポスターや電光掲示板にマナー啓発のCGを制作し、展示を行った。活動を通じてコミュニケーションの力やチームワークの力、リーダーシップの力を伸ばした。
- ・「積み木」「フェルト製作」・・・作成した学生達が例年、自ら保育園に寄贈に行き、園児から歌を歌って歓迎してもらい、お返しに園児たちが絵を描いたり、貼ったりした作品をプレゼントしてもらっている。
- ・「けま喜楽苑」・・・大掃除の手伝いや苑内での文化祭などで高齢者の方々とふれあい理解を深めた。
- ・「伊丹アピールプラン」・・・伊丹市との連携企画で市内のウォーキングに参加したり、市内にある「御願塚古墳」の模型を制作し、伊丹市立博物館に展示の予定である。

学生たちは、年々社会貢献活動により、大きく成長し、社会貢献の喜びも感じることができている。11月には報告会を行い、地域貢献活動に関わった企業、施設等の方々にも学生の発表を聞いていただき、地域貢献活動の経験を共有する機会を持った。



②他大学編入を目指す学生へのサポート体制強化

編入学委員による積極的なリクルート、保護者会での講演の企画により、保護者を通じての学生への情報提供など、様々な機会を通じて、学力の高い学生に対する編入学志望者を発掘するよう努め、編入学対策講座は実施計画のとおり遂行することができた。

今後の体制、環境改善、学生募集等についての取り組みを強化し、さらに編入学に特化した指導体制を進めていくことが成果につながるものと考えている。

③伊丹市およびその関連団体との連携協定の検討

FD委員会での地域貢献活動の内容充実、伊丹アピールプランでの地域に密着した活動増加は定着し、社会からの期待も大きくなっている。また全国の短期大学の活動割合と比較して、本学学生の参加率が高いことが明らかとなり本学の大きな特徴となっている。その他、昨年度新規の取組みも継続できた。

地域・企業との連携は年々充実拡大しており、今後も積極的に推し進めたい。特に公開講座では伊丹市民の関心も大きく、学生参加の内容が増加し、本学の認知度

を上げることができている。今後、2020 年度歯科衛生学科スタート及び 2021 年度のさくら夙川キャンパスへの短大移転に伴い、これまでの伊丹市との関係を継続しつつ、西宮市との関係を増やしていきたい。



4. 栄養製菓学院

<事業計画>

① 栄養学科リニューアルスタート

管理栄養学科が大学健康栄養学部へ継承されたので、栄養士養成施設としてキャンパスとともにリニューアルした大手前栄養をアピールする。

② 製菓学科終了

今年度で終了となる製菓学科は、「学園スイーツ学」の基盤としての役割を果たしていく。

③ 教育力強化

- ・栄養士実力認定試験、家庭料理技能検定における全国平均以上の成果をあげる
- ・ボランティア社会活動として、大阪府や大阪市との食育活動や社会連携を継続する。

2019 年度は新 C 棟の完成に伴い、3 年ぶりに工事のないキャンパスとなった。専門学校管理栄養学科は 2019 年 3 月末をもって学科廃止となったが、入れ替わって大学健康栄養学部 1 期生が 4 年生となり、新 2 年生も加わり 3 学年が在籍、また大学新学部である国際看護学部の 1 期生も加わり、雰囲気も新たな環境で学修がスタートした。11 月に行われたフェスタでは、3 年ぶりに中庭が使用され、オープニングの大学和太鼓部の演奏からフィナーレまで大盛況の 1 日となり、新たな大阪大手前キャンパスを実感することができた。



【栄養学科リニューアルスタート】

昨年度まで、校舎建設工事に伴い、仮講義室や仮図書室を利用し、実験室も1室減であったことから、6限目を使った授業とする等工事期間中でも学修に支障がきたさないよう努めてきた。1月末に完成した新C棟には、栄養学科専用の講義室4室と大学との共用実験室1室が整備され、2年生と新入生ともに新しい校舎を使用した学修がスタートした。今後さらにキャンパス整備を計画することで満足度をあげていきたい。

【製菓学科終了】

2019年度入学生は製菓学科最終学年となり、2020年3月末学科廃止となった。学修に支障をきたすことなく卒業要件を充足し、全員の卒業をもって専門学校製菓学科の幕を閉じた。これまで培ってきたノウハウを今後学園全体のスイーツ学に発展させていく。

【教育力強化】

(1) 栄養学科

①栄養士実力認定試験

2019年12月8日(日)に全国9,180名が受験する栄養士養成施設協会主催の「栄養士実力認定試験」に、栄養学科2年生64名の学生が取り組んだ。

今年度は、本学学生が全受験者中全国2位及び栄養士課程施設全受験者中全国1位を獲得した。さらに全国5位及び同2位が2名、全国9位及び同5位が1名と、全国ベスト10に4名が入った。さらに、優良賞となる11位から100位以内に5名と、全国100位内に本学学生が9名入賞するという快挙を成し遂げた。

本学栄養学科生の平均点は57.8点と全国平均47.2、専門学校平均45.0を上回り、A認定についても、54名(64名受験中84.4%)と全国A認定基準60%を凌駕する成績を修めた。大学生も含め全国管理栄養士課程施設の3年次学生も受験する中で、前年度100位内2名からの大躍進で、日頃の指導と学生の努力の賜物と大いに評価したい。

②管理栄養士国家試験・卒業生対策講座

専門学校管理栄養学科最後の学年がトライした国家試験は、2019年3月3日(日)に開催され、合格発表も年度内の3月29日(金)に行われた。本学は、管理栄養学科新卒90名全員が受験し、82名が合格した。栄養学科既卒者は55名が受験し、19名が合格、管理栄養学科既卒合格者1名と併せ、総数102名の合格者を輩出した。

栄養学科既卒者合格率は34.5%と全国栄養士課程既卒者平均合格率20.4%を大きく上回る合格率となった。合格者のうち7名が本学の卒業生対策講座を受験しており、本学の支援体制が卒業生の国家試験受験の後押しとなっている。

そして2020年3月実施の国家試験においては、既卒生46名が受験、12名が合格、合格率26.1%は全国栄養士課程既卒者平均17.8%を大きく上回る成果を収めた。

③資格取得支援

(ア)「家庭料理技能検定」

文科省が後援する検定で、本学では調理のできる栄養士・管理栄養士育成を motto に、料理技術ならびに調理や衛生に関する知識向上につなげるべく本検定資格の取得を奨励している。

今年度は、難関の準1級部門で栄養学科6名が合格、うち1名が全国検定振興機構理事長賞（2位入賞に該当）、次いで優秀賞に1名、優良賞に2名が入賞するという快挙を成し遂げた。2級部門においても栄養学科2年生 10名合格し、うち3名が優秀賞に、優良賞に1名が入賞した。

(イ)「NR・サプリメントアドバイザー認定試験」

2019年12月に実施された認定試験において、大学健康栄養学部編入学（現4回生）をした栄養学科卒業生1名が受験して見事合格している。なお、2019年度後期に開講されている特講には2年生8名が受講しており、次年度以降の受験に期待する。

(ウ)「登録販売者講座」

近年、薬局やドラッグストアへの進路を検討する学生も増加しており、NR・サプリメントアドバイザーとともに登録販売者資格にチャレンジしようという学生向けに選択科目として開講している。今年度は、29名の学生が受講した。

④ 退学率低減

2019年度入学の1年生に対して、従来の夏期休暇前の先輩学生による前期試験対策に加え、1年生担任2名にサブ担任1名をおき、入学時の基礎学力試験で学力不足の学生に対して補講を実施するなど早期退学防止を図った。引き続き担任教員とも連携を強化しながら退学率上昇の防止を継続していく。

⑤ 社会連携活動

(ア) 食育ボランティア

ボランティア部所属の学生が中心となって、大阪府・大阪市の食育イベントに継続的にボランティア参加し、地域における食育普及活動を支援している。

2019年度も淀川区をはじめ大阪市各区が開催する健康フェスタに大学健康栄養学部学生と合同で参加し、食育ボランティア活動を実施した。



(イ) マルシェ㈱とのメニュー共同開発

酔虎伝・八剣伝を経営するマルシェ㈱とのコラボメニュー開発に栄養学科 2 年生が例年参画しており、今年度は 4 チーム 8 名が考案したメニューがグランドメニューとして採用され、マルシェ各店で販売が決定した。販売に先立ち 9 月 4 日に本学で表彰式が行われ、入賞学生にはマルシェ㈱の加藤社長より直々に表彰いただいた。



(ウ) 大阪府×カゴメ適塩・野菜たっぷりめっちゃ健康メニューコンテスト

大阪府とカゴメ㈱主催の本コンテスト予選に栄養学科 26 チーム、大学健康栄養学部 11 チームが応募し、栄養学科 2 年生の 1 チームが予選を通過した。応募総数は大学調理学科生も参加する全 240 チームで、うち本選選出（優秀賞以上確定）は 6 チームと大激戦であった。なお入賞作品 6 メニューは、2 月に三井不動産中之島ビルディング従業員食堂「cuimotte」で開催される食育イベントで、VOS（野菜たっぷり・適油・適塩）メニューとして提供された。



『お出汁の Umami とフルーツの香りを効かせて減塩！ごはん！』
（大手前栄養製菓学院専門学校 栄養学科 2 年チーム）

(2) 製菓学科

①新カリキュラムの推進

新カリキュラム 2 年目となることから、今年度入学者に対して現場で役立つ実践力のある人材養成をめざし、マンツーマンに近い指導を行うことで、基礎力を強化する密度の濃い学修を実現しており、2 月 7 日には卒業制作展で 1 年間の総仕上げに取り

組んだ。



また、付帯事業である大学・短大生向け製菓衛生師試験受験資格取得のための通信課程については、大学・短大併せて 52 名が修了した。

②学生支援状況

担任教員とのコミュニケーションを密にした教育により、退学者を出ることなく全員卒業となった。

なお、3 月末現在ほぼ全員の就職が内定しており、未内定者については引き続き支援を行っていく。

● 財務の概要

【決算概要】

(1) 資金収支計算書

資金収支計算書は、年度の諸活動に対応するすべての資金収入と資金支出の内容と支払資金の顛末を明らかにする書類です。ここでは、予算額との比較で説明します。

2019年度の決算は収入の部合計で、61百万円減の99億16百万円となりました。これは、主として前受金収入が当初の予想よりも下回ったことによるものです。

一方、支出の部では人件費、教育研究経費、管理経費が当初の予想よりも上回ったため、翌年度繰越支払資金を除く支出合計で96百万円の増加となりました。

結果として、翌年度繰越支払資金は、1億58百万円減の23億95百万円となりました。

活動区分による資金収支の状況は、教育活動による資金収支差額が1億12百万円の収入超過、施設整備等活動による資金収支差額が15億34百万円の支出超過、その他の活動による資金収支差額が3億12百万円の収入超過となりました。これにより、支払資金の増減額は11億11百万円の減少となりました。

(2) 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、事業活動収入と事業活動支出の内容を明らかにし、その均衡状態（経営状態）をあらわすもので、企業会計の損益計算書に該当するものです。ここでも予算額との比較で説明します。

事業活動収入計は20百万円増の51億25百万円、事業活動支出計は1億31百万円増の55億90百万円となり、その結果基本金組入前当年度収支差額は、予算額より1億12百万円支出超過の4億65百万円となりました。

活動区分毎に見てみますと、教育活動収支は、収入面で学生生徒等納付金等の増加により、26百万円増の50億37百万円となりました。一方で支出面は、人件費、教育研究経費、管理経費の増加により、92百万円増の54億18百万円となりました。結果、教育活動収支差額は、予算額より66百万円支出超過の3億81百万円となりました。

教育活動外収支は、受取利息・配当金が予算より下回ったことから、収支差額は14百万円減の49百万円の収入超過となりました。

特別収支は、収入面で有価証券売却益により7百万円増の29百万円となったものの、有価証券の評価替等により、支出面で39百万円増の1億63百万円となったため、特別収支差額は、32百万円支出超過の1億33百万円となりました。

(3) 貸借対照表

貸借対照表は、期末における学園の財政状態を示します。ここでは、前年度決算額との比較で説明します。

まず、資産の部ですが、有形固定資産は、学生寮用の土地・建物取得等によって増加したことから、全体として 14 億 97 百万円の増加となりました。

一方で、短期大学新学科の開設などに伴う特定資産の取崩があったため、固定資産全体では、8 億 26 百万円の増加にとどまりました。

流動資産は、現金預金の減少等により 11 億 23 百万円の減少となりました。

結果として、総資産額では、2 億 97 百万円減の 401 億 75 百万円となりました。

負債の部では、借入金の実行により、負債合計で 1 億 68 百万円の増加となりました。

従いまして、純資産額（総資産額－総負債額）は、前年度末に比して 4 億 65 百万円減の 357 億 23 百万円となりました。また、総資産額に占める割合（純資産比率）は、前年度末より 0.5 ポイント減の 88.9%となりました。

以上

【貸借対照表】

(単位:千円)

年 度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
科 目					
(資産の部)					
固定資産	37,041,385	36,920,349	36,685,527	36,892,020	37,718,164
有形固定資産	29,155,085	28,833,231	28,872,561	30,613,635	32,110,773
土地・建物・建物附属設備・構築物	26,807,796	26,538,829	26,325,180	28,018,837	28,658,509
機器備品	787,421	679,235	660,936	949,374	1,245,905
図書	1,556,477	1,572,540	1,593,068	1,636,616	1,650,714
その他	3,391	42,627	293,376	8,808	555,646
特定資産	6,753,901	6,787,240	6,596,764	5,303,139	4,618,319
その他の固定資産	1,132,399	1,299,878	1,216,202	975,246	989,072
流動資産	2,299,685	1,927,379	1,672,888	3,579,336	2,456,682
資産の部合計	39,341,070	38,847,728	38,358,415	40,471,356	40,174,846
(負債の部)					
固定負債	925,955	1,107,293	1,309,956	3,011,241	3,278,641
長期借入金	215,510	365,040	584,570	1,190,100	1,471,350
長期前受金他	2,552	1,000	800	1,096,532	1,096,532
退職給与引当金	707,893	741,253	724,586	724,609	710,759
流動負債	1,001,902	969,516	1,042,771	1,272,515	1,173,538
負債の部合計	1,927,858	2,076,809	2,352,727	4,283,756	4,452,179
(純資産の部)					
基本金	42,065,387	42,169,146	42,735,611	43,300,953	44,774,268
繰越収支差額	△ 4,652,175	△ 5,398,227	△ 6,729,924	△ 7,113,353	△ 9,051,600
純資産の部合計	37,413,212	36,770,919	36,005,688	36,187,601	35,722,668
負債及び純資産の部合計	39,341,070	38,847,728	38,358,415	40,471,356	40,174,846

注. 基本金は、学校法人の諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持するものとして

事業活動収入のうちから組み入れた額とします。(学校法人会計基準<文部省令第18号>)

【資金収支計算書】

(単位:千円)

年 度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
科 目					
(収入の部)					
学生生徒等納付金収入	4,110,325	4,034,388	3,935,553	4,042,453	4,487,290
手数料収入	48,160	50,720	47,154	72,912	81,445
寄付金収入	5,165	16,064	5,055	897	10,836
補助金収入	259,483	299,433	383,482	324,695	368,290
資産売却収入	549,096	124,947	397,218	1,250,653	241,313
付随事業・収益事業収入	68,794	70,676	64,844	65,698	61,124
受取利息・配当金収入	98,012	65,599	66,493	76,698	58,932
雑収入	28,697	26,741	28,326	46,252	27,927
借入金等収入	0	260,000	327,000	713,000	400,000
前受金収入	835,749	805,775	842,747	2,156,718	971,732
その他の収入	2,993,828	129,654	604,306	1,433,063	772,934
資金収入調整勘定	△ 890,031	△ 855,883	△ 896,669	△ 864,761	△ 1,071,686
前年度繰越支払資金	2,753,189	2,256,113	1,856,167	1,521,811	3,505,942
収入の部合計	10,860,466	7,284,228	7,661,677	10,840,090	9,916,079
(支出の部)					
人件費支出	2,427,690	2,450,394	2,508,707	2,498,078	2,717,546
教育研究経費支出	1,170,459	1,228,655	1,326,047	1,306,453	1,353,213
管理経費支出	714,971	721,607	642,314	777,952	723,637
借入金等利息支出	4,793	2,968	3,494	5,324	9,628
借入金等返済支出	141,718	93,483	99,470	107,470	107,470
施設関係支出	495,364	359,992	750,305	1,955,621	1,734,487
設備関係支出	245,990	87,235	142,557	459,193	505,359
資産運用支出	3,400,489	400,036	658,058	209,379	277,952
その他の支出	85,360	132,911	121,410	137,986	180,305
資金支出調整勘定	△ 82,480	△ 49,221	△ 112,496	△ 123,307	△ 88,633
翌年度繰越支払資金	2,256,113	1,856,167	1,521,811	3,505,942	2,395,115
支出の部合計	10,860,466	7,284,228	7,661,677	10,840,090	9,916,079

【活動区分資金収支計算書】

(単位:千円)

科 目	年 度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
(教育活動による資金収支)						
教育活動資金収入計		4,511,122	4,487,806	4,384,802	4,544,448	5,036,913
教育活動資金支出計		4,313,120	4,400,656	4,477,068	4,582,483	4,794,396
差引		198,002	87,150	△ 92,266	△ 38,034	242,517
調整勘定等		△ 10,851	△ 74,779	60,624	233,201	△ 130,762
教育活動資金収支差額		187,150	12,371	△ 31,643	195,167	111,755
(施設整備等活動による資金収支)						
施設整備等活動資金収入計		2,821,633	35,216	479,613	2,169,856	700,000
施設整備等活動資金支出計		3,741,353	472,227	1,092,862	2,414,814	2,239,846
差引		△ 919,720	△ 437,011	△ 613,249	△ 244,958	△ 1,539,846
調整勘定等		△ 4,682	6,410	△ 69,397	1,166,886	5,459
施設整備等活動資金収支差額		△ 924,402	△ 430,601	△ 682,646	921,928	△ 1,534,387
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)		△ 737,252	△ 418,230	△ 714,288	1,117,095	△ 1,422,631
(その他の活動による資金収支)						
その他の活動資金収入計		813,576	529,498	974,882	1,221,124	751,165
その他の活動資金支出計		572,352	512,026	593,470	355,601	438,708
差引		241,225	17,472	381,412	865,522	312,457
調整勘定等		△ 1,048	812	△ 1,480	1,513	△ 652
その他の活動資金収支差額		240,176	18,283	379,933	867,035	311,805
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)		△ 497,076	△ 399,946	△ 334,356	1,984,130	△ 1,110,826
前年度繰越支払資金		2,753,189	2,256,113	1,856,167	1,521,811	3,505,942
翌年度繰越支払資金		2,256,113	1,856,167	1,521,811	3,505,942	2,395,115

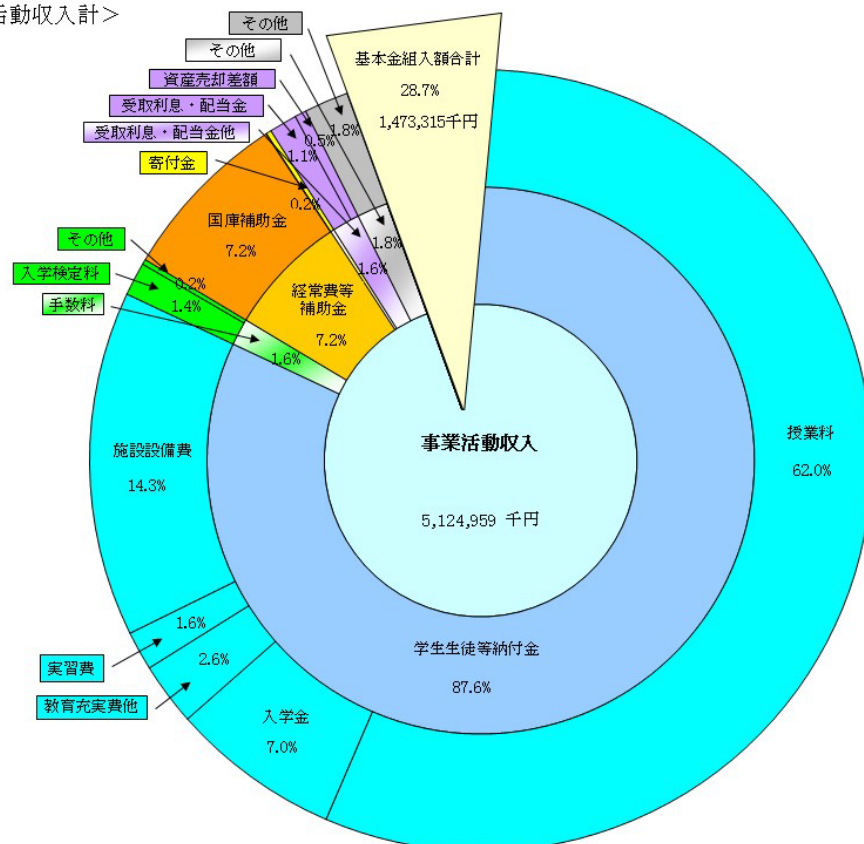
【事業活動収支計算書】

(単位:千円)

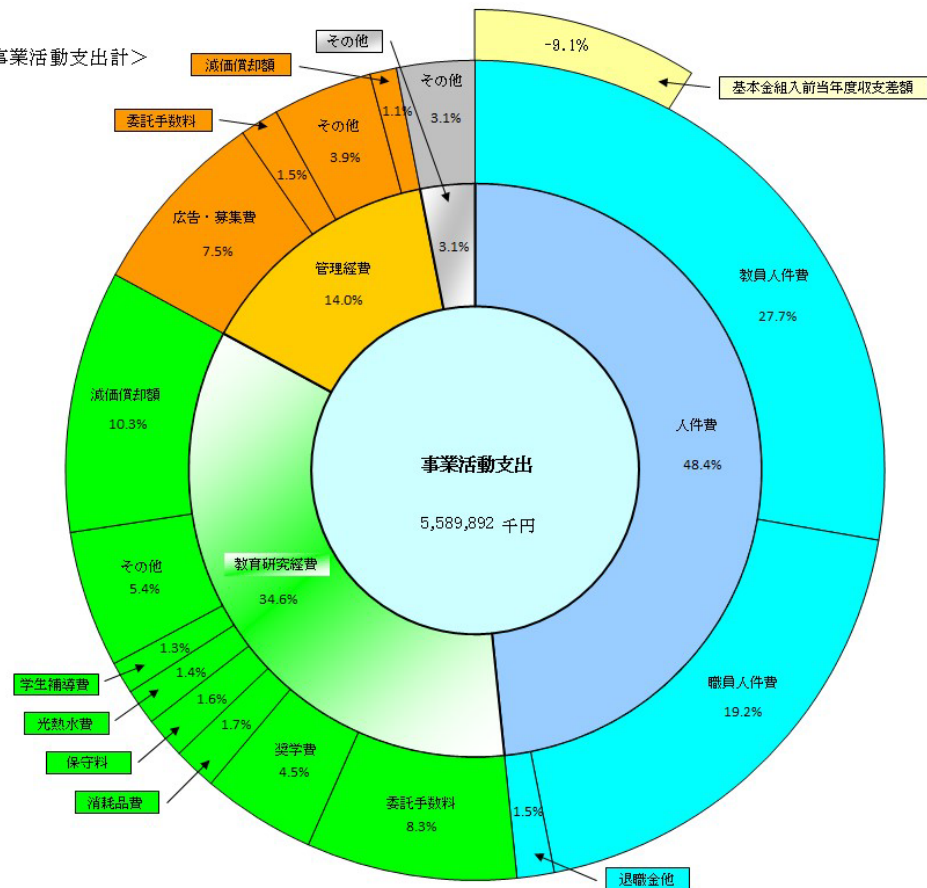
年 度		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
科 目						
教育活動収支	(事業活動収入の部)					
	学生生徒等納付金	4,110,325	4,034,388	3,935,553	4,042,453	4,487,290
	手数料	48,160	50,720	47,154	72,912	81,445
	寄付金	5,165	16,064	5,055	897	10,836
	経常費等補助金	249,980	289,217	303,869	316,236	368,290
	付随事業収入	68,794	70,676	64,844	65,698	61,124
	雑収入	28,697	26,741	28,326	46,252	27,927
	教育活動収入計	4,511,122	4,487,806	4,384,802	4,544,448	5,036,913
	(事業活動支出の部)					
	人件費	2,465,699	2,483,753	2,492,040	2,498,100	2,703,696
	教育研究経費	1,685,979	1,759,167	1,807,897	1,775,865	1,931,547
	管理経費	794,727	787,428	699,090	833,414	782,428
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	4,946,405	5,030,348	4,999,027	5,107,379	5,417,671
	教育活動収支差額	△ 435,283	△ 542,543	△ 614,225	△ 562,931	△ 380,759
教育活動外収支	(事業活動収入の部)					
	受取利息・配当金	98,012	65,599	66,493	76,698	58,932
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	98,012	65,599	66,493	76,698	58,932
	(事業活動支出の部)					
	借入金等利息	4,793	2,968	3,494	5,324	9,628
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	4,793	2,968	3,494	5,324	9,628
	教育活動外収支差額	93,219	62,630	62,998	71,374	49,303
	経常収支差額	△ 342,064	△ 479,912	△ 551,227	△ 491,556	△ 331,455
特別収支	(事業活動収入の部)					
	資産売却差額	19,988	18,845	35,233	721,377	24,449
	その他の特別収入	10,933	17,196	82,420	13,227	4,666
	特別収入計	30,921	36,041	117,652	734,605	29,114
	(事業活動支出の部)					
	資産処分差額	84,620	198,421	331,657	61,135	162,592
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出計	84,620	198,421	331,657	61,135	162,592
	特別収支差額	△ 53,699	△ 162,381	△ 214,004	673,469	△ 133,478
	基本金組入前当年度収支差額	△ 395,764	△ 642,293	△ 765,232	181,913	△ 464,933
		△ 671,891	△ 276,462	△ 566,466	△ 565,342	△ 1,473,315
		△ 1,067,654	△ 918,755	△ 1,331,697	△ 383,429	△ 1,938,248
		△ 3,584,520	△ 4,652,175	△ 5,398,227	△ 6,729,924	△ 7,113,353
		0	172,703	0	0	0
		△ 4,652,175	△ 5,398,227	△ 6,729,924	△ 7,113,353	△ 9,051,600
(参考)						
事業活動収入計		4,640,055	4,589,445	4,568,947	5,355,751	5,124,959
事業活動支出計		5,035,818	5,231,738	5,334,178	5,173,838	5,589,892

【事業活動収入・支出割合】

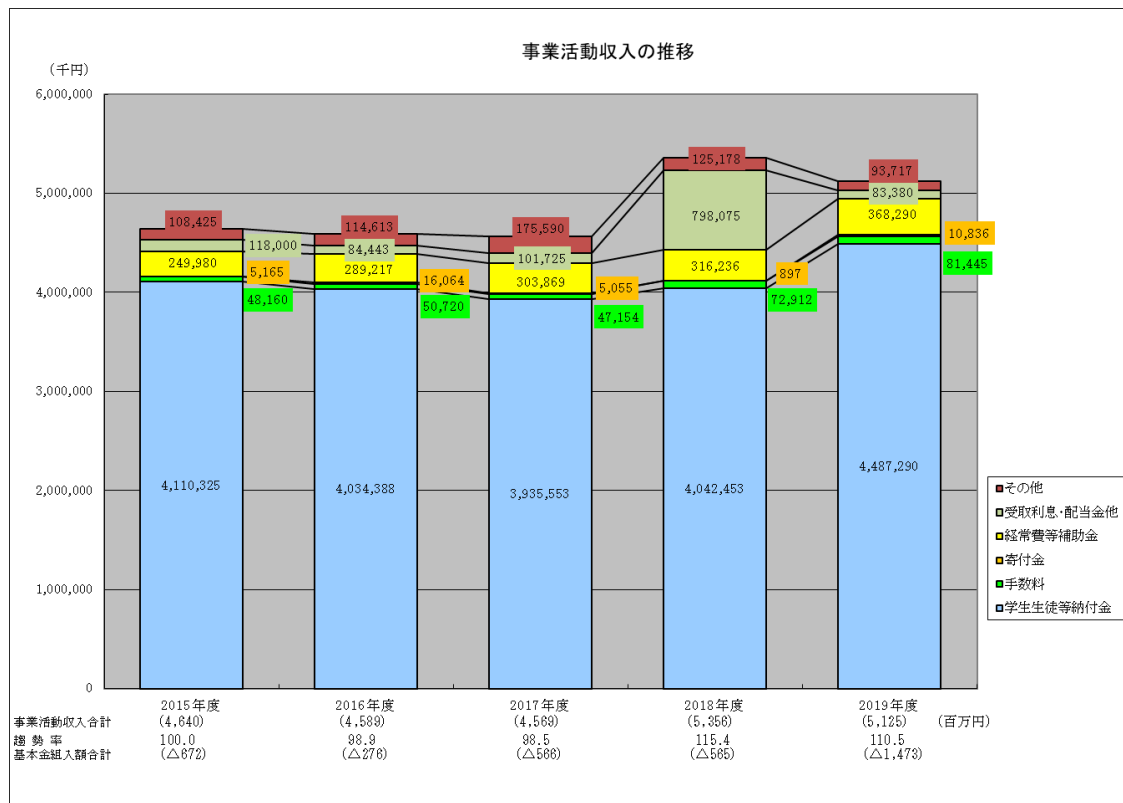
<事業活動収入計>



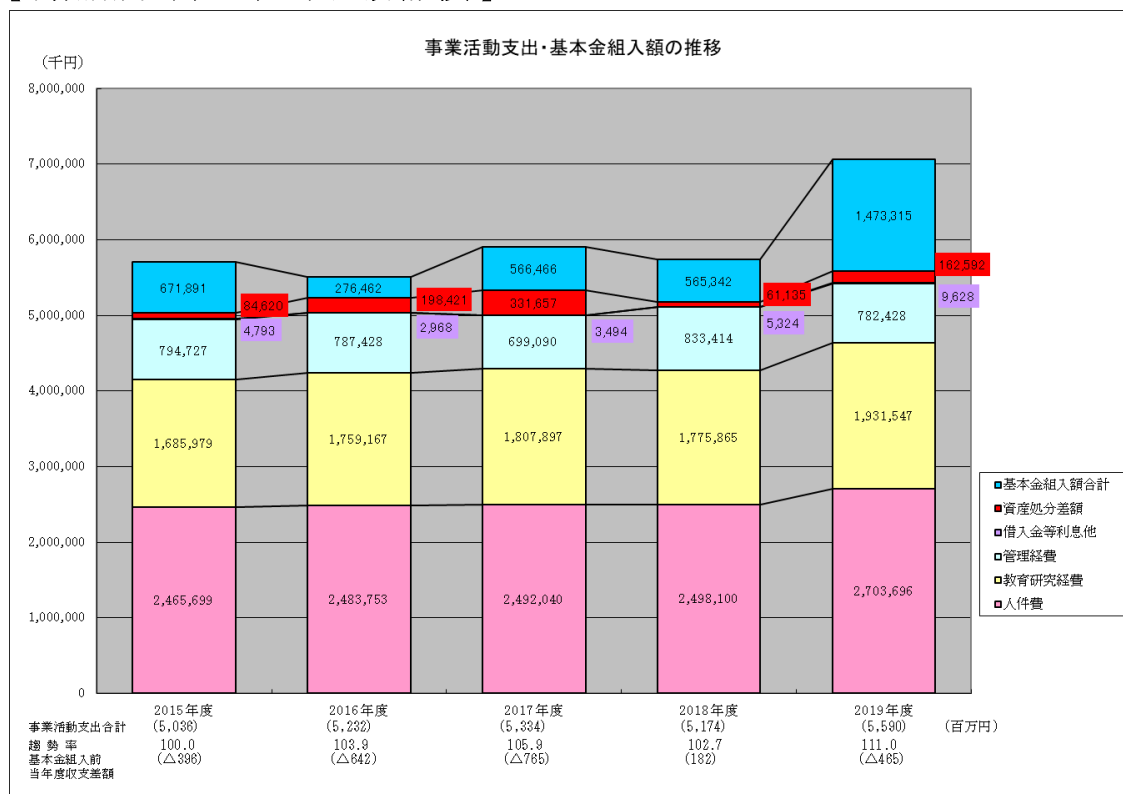
<事業活動支出計>



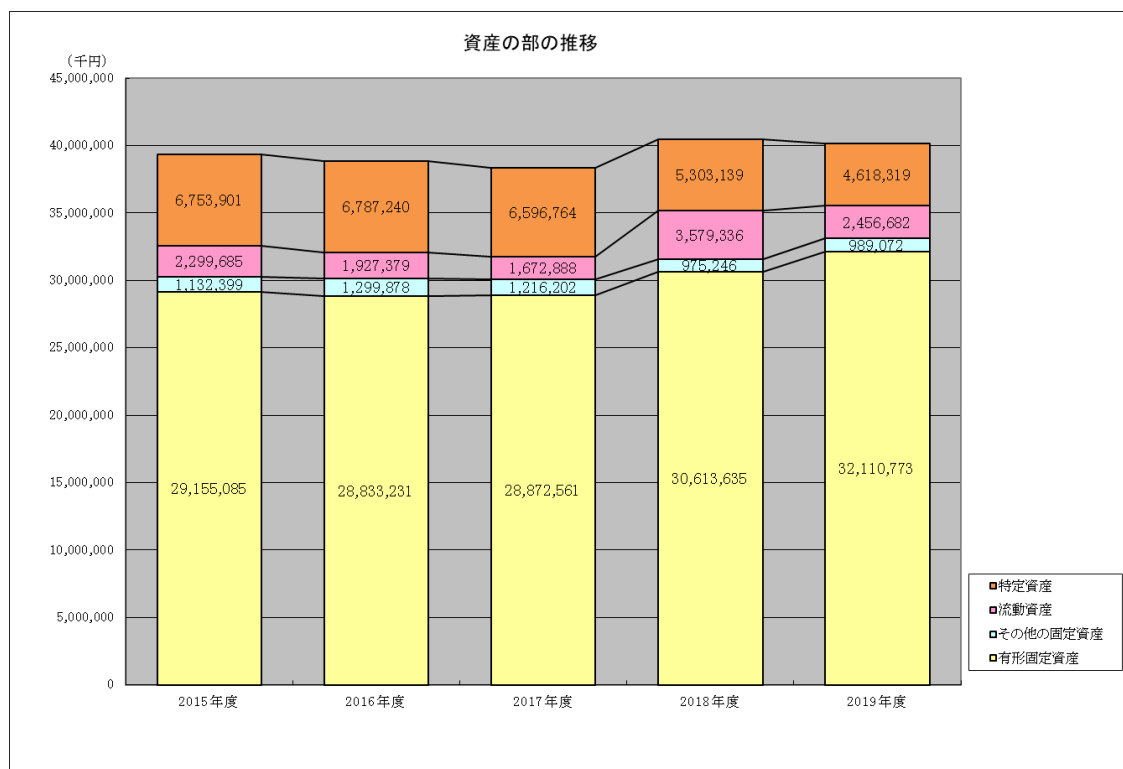
【事業活動収入(推移)】



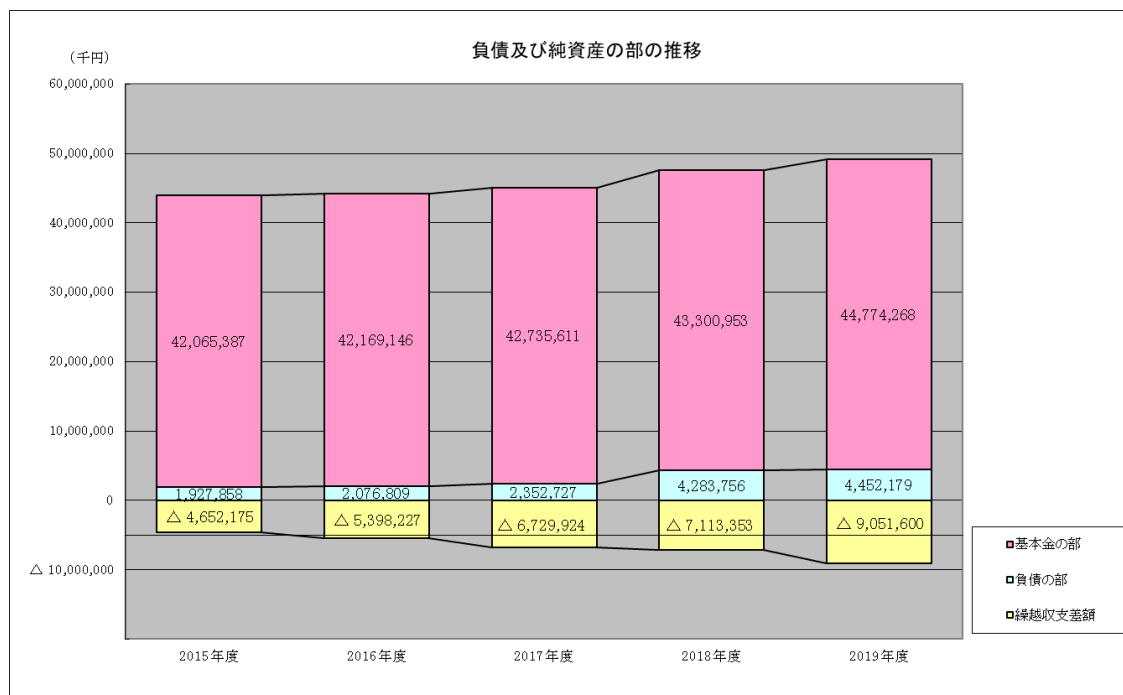
【事業活動支出・基本金組入額(推移)】



【資産(推移)】



【負債及び純資産(推移)】



【財務比率の推移】

	比 率	算 式	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	H30年度 全国平均 (大学法人)	評価 基準
貸 借 対 照 表 関 係	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	94.2%	95.0%	95.6%	91.2%	93.9%	86.8%	▼
	運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	1.9年	1.8年	1.7年	1.6年	1.1年	1.9年	△
	純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債}+\text{純資産}}$	95.1%	94.7%	93.9%	89.4%	88.9%	87.8%	△
	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	99.0%	100.4%	101.9%	101.9%	105.6%	98.8%	▼
	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	229.5%	198.7%	160.4%	281.1%	209.3%	246.6%	△
	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	4.9%	5.3%	6.1%	10.6%	11.1%	12.2%	▼
	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	270.5%	230.3%	180.5%	330.4%	246.4%	348.7%	△
	退職給与引当特定資産保有率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	49.4%	47.2%	48.3%	48.3%	49.2%	71.2%	△
	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	99.3%	98.9%	98.4%	97.1%	96.6%	97.3%	△
	減価償却比率	$\frac{\text{減価償却累計額(図書を除く)}}{\text{減価償却資産取得価額(図書を除く)}}$	52.9%	55.2%	54.5%	51.3%	50.0%	51.5%	～
事 業 活 動 収 支 関 係	積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	74.7%	70.5%	67.7%	69.1%	55.0%	79.3%	△
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	89.2%	88.6%	88.4%	87.5%	88.0%	74.8%	～
	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	0.2%	0.5%	0.2%	0.1%	0.3%	2.1%	△
	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	5.6%	6.5%	8.4%	6.1%	7.2%	12.6%	△
	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	53.5%	54.6%	56.0%	54.1%	53.1%	53.0%	▼
	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	60.0%	61.6%	63.3%	61.8%	60.3%	70.9%	▼
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	36.6%	38.6%	40.6%	38.4%	37.9%	33.4%	△
	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	17.2%	17.3%	15.7%	18.0%	15.3%	8.8%	▼
	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	-8.5%	-14.0%	-16.7%	3.4%	-9.1%	4.6%	△
	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	14.5%	6.0%	12.4%	10.5%	28.7%	10.8%	△
※	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	-7.4%	-10.5%	-12.4%	-10.6%	-6.5%	4.5%	△
	教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	4.1%	0.3%	-0.7%	4.3%	2.2%	14.6%	△

注. 1. 経常収入＝教育活動収入計＋教育活動外収入計

2. 表中の※は活動区分資金収支計算書から算出

評価基準 △：高い方が良い
▼：低い方が良い
～：どちらともいえない

【経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策】

本学園は、貸借対照表(p.46)から明らかなとおり、ストック面では安定的な経営状況を維持できております。一方で、フロー面では 18 歳人口の減少をはじめとした厳しい外部環境を反映し、学生数の一時的減少もあって、経常収支と事業活動収支(除 2018 年度)の支出超過が継続しております(p.48)。

大学・短期大学の今後の発展と状況の打開に向けて、大学では健康栄養学部および国際看護学部の開設を、短期大学では歯科衛生学科の開設をするなど時代のニーズに合った学部学科の開設を進めてまいりました。ただし、当初は経費が先行しますとその効果は完成年度まで待つ必要があります。

また、時代に合わせた人事制度の改革や経費削減の努力も併せて実施中であり、収入支出両面での取り組みにより、安定した収支構造を構築してまいります。

2019 年度 事業報告書

学校法人 **大手前学園**

〒540-0008 大阪府大阪市中央区大手前 2-1-88

大手前大学

〒662-8552 兵庫県西宮市御茶家所町 6-42

〒664-0861 兵庫県伊丹市稲野町 2-2-2

〒540-0008 大阪府大阪市中央区大手前 2-1-88

大手前短期大学

〒664-0861 兵庫県伊丹市稲野町 2-2-2

大手前栄養製菓学院

〒540-0008 大阪府大阪市中央区大手前 2-1-88